

① 申請者	なかつし くすまち ◎中津市 玖珠町	② タイプ	地域型 / シリアル型 A B C D E
-------	-----------------------	-------	--------------------------

③ タイトル

やばけい遊覧～大地に描いた山水絵巻の道をゆく

④ ストーリーの概要（200字程度）

耶馬溪とは、川が溶岩台地を浸食した奇岩の溪谷で、石柱の断崖、岩窟、滝、巨石が大パノラマをつくっています。その深く神秘的な地形は伝説と祈りの場所となり、山水画のような風景は文人画人憧れの地でもありました。1000年以上の昔から、人々は岩から仏、石橋、洞門、庭園と、優れた作品を生み出し、広大な大地に配しては回遊路でつないでいき、大正時代ついに一本の絵巻物のようにまとめあげました。次々と場面が展開する「耶馬溪」という山水絵巻に入り込み、空から、谷底から、遊覧の旅をお楽しみください。



吉田初三郎の鳥瞰図「天下無二 耶馬全溪の交通図絵」



天にのびる石柱群



日本最古の五百羅漢



谷々に伝わる河童祭り

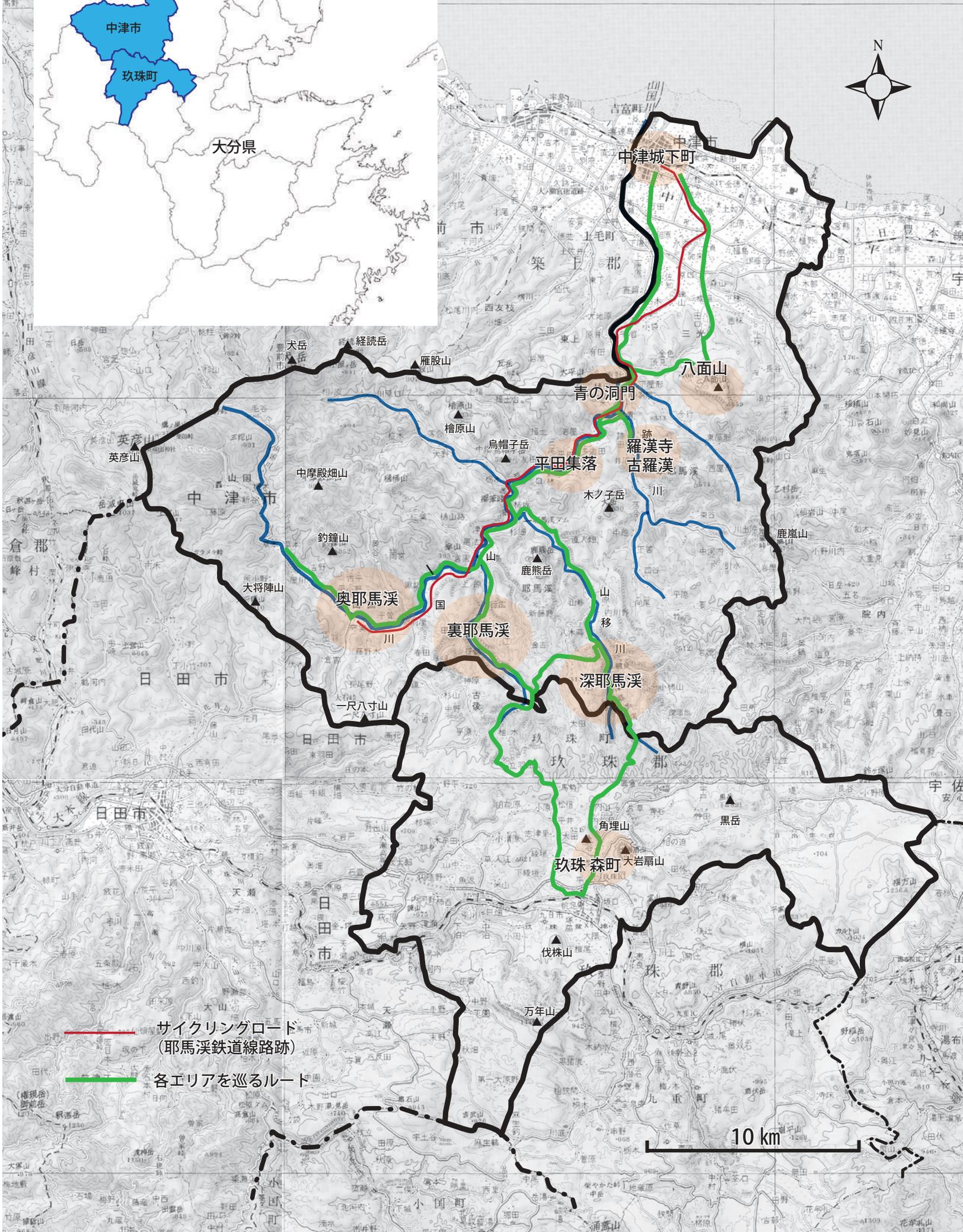


溪流の甌穴群

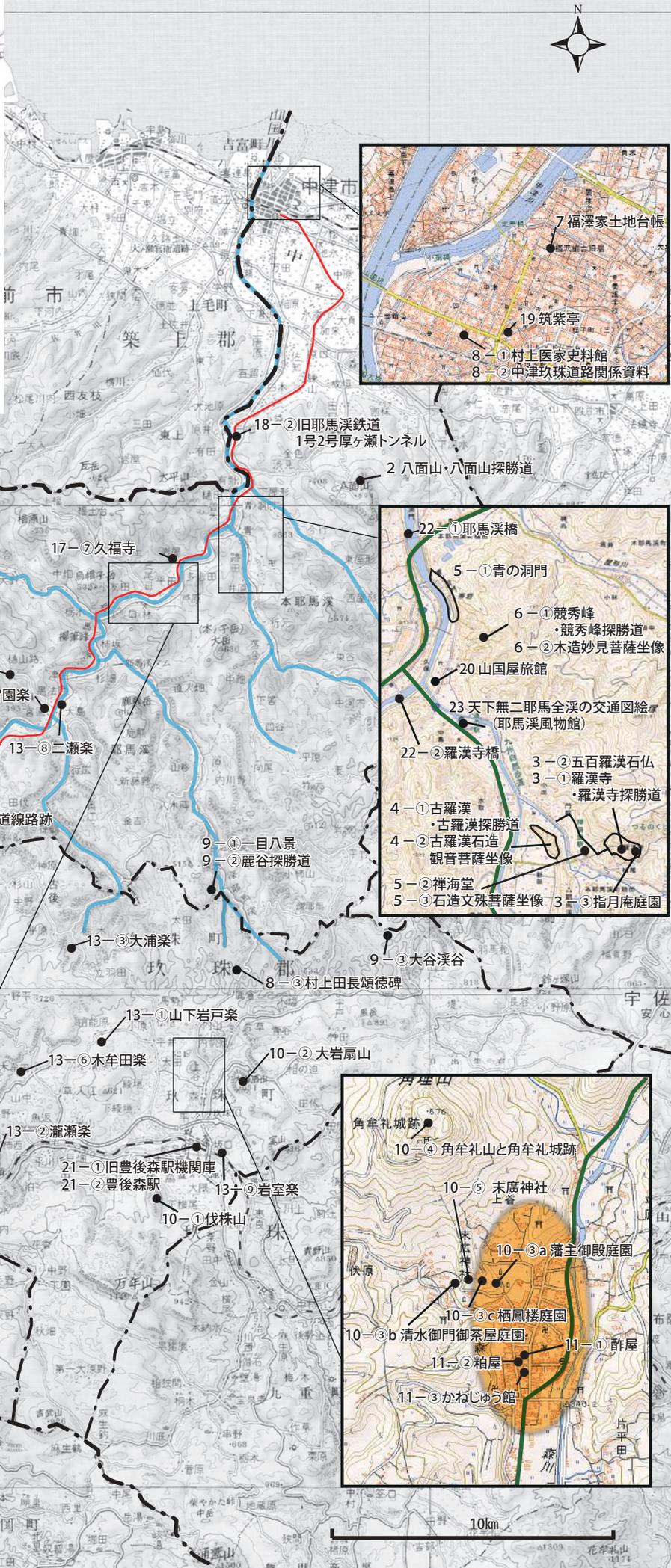
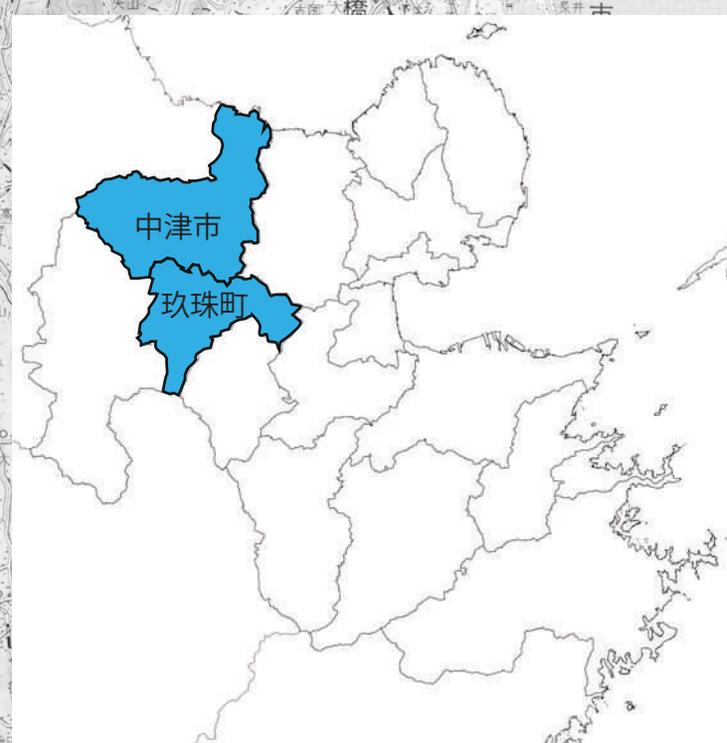
市町村の位置図

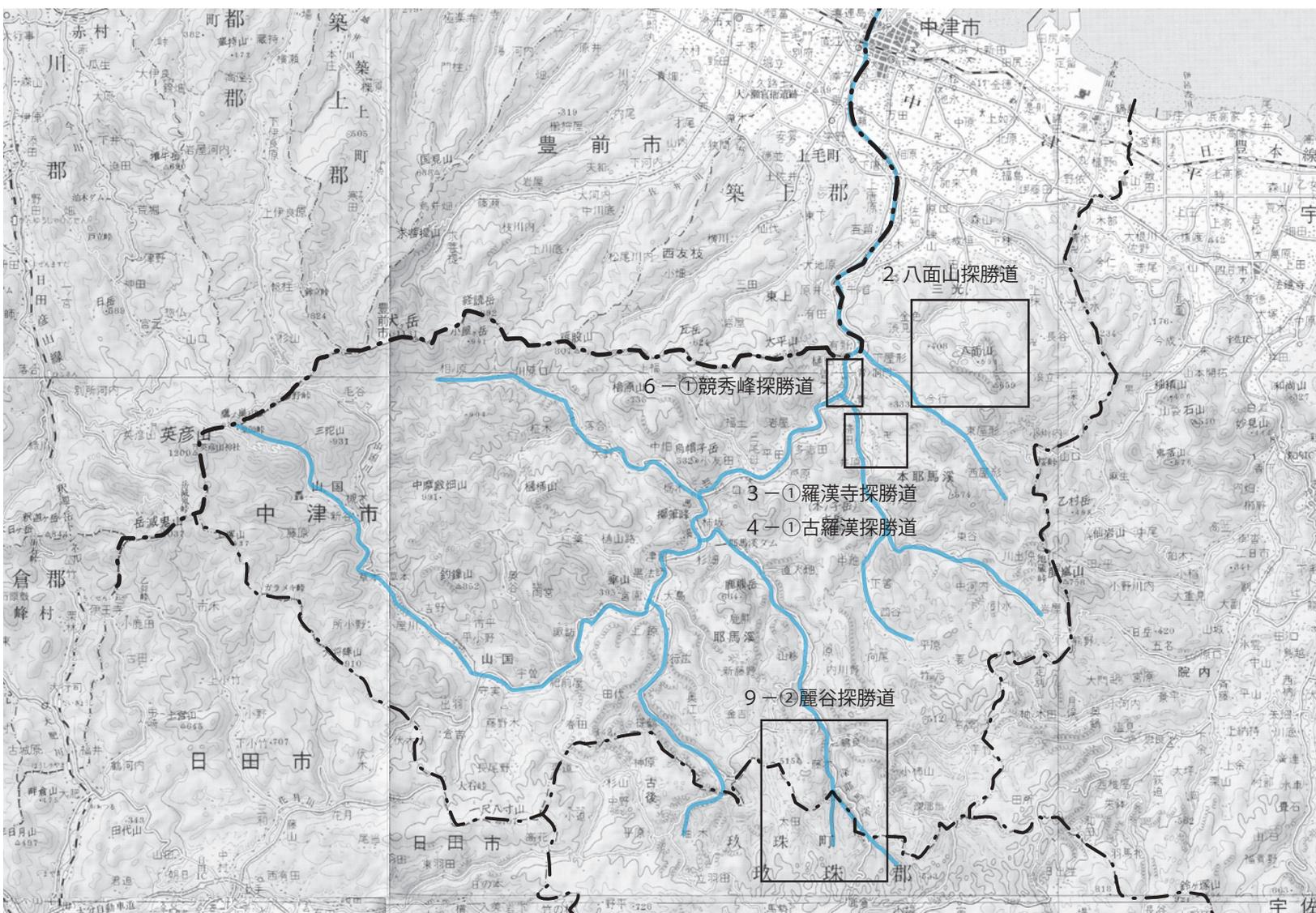


構成文化財の位置図①



構成文化財の位置図②







ストーリー

耶馬溪とは、山国川が溶岩台地を深く浸食して作りだした奇岩の溪谷で、中津・玖珠の二つの城下町に挟まれています。南北 32 km 東西 36 km の敷地に、断崖、岩窟、溪流が大パノラマをつくり、その深く神秘的な地形は伝説と祈りの場所となりました。人々が時をかけ岩を削り想いを描き、一本の絵巻のようにまとめあげた「耶馬溪」の遊覧の旅に出かけましょう。

【巨石伝説の山－八面山－】

海辺の城下町中津を出発しまず目に入るテーブル状の山は、耶馬溪の入口、様々な伝説を持つ巨石が群をなす霊峰「八面山」です。修験の滝や奇岩を巡り頂に登れば、北は中津平野と周防灘、南は耶馬溪～玖珠の山々まで、広々とした眺望が開けます。約 1000 年前の平安時代より、八面山を中心に、古代仏教文化が花開き、人々は周辺の岩屋に仏を安置していきました。

【絶壁をつたい仏に会う－羅漢寺・古羅漢－】

八面山から望む岩山を目指し、参道の細く長い石畳の先に岩窟の寺院「羅漢寺」があります。羅漢寺と、対岸に盛り上がるごつごつとした峰「古羅漢」の探勝道では、人々は二千体の石仏を彫り、仏の教えを伝える意味をもたせて配しました。天然の石橋や岩窟、岩肌を巡らせた鎖をつたい登れば、約 650 年前の室町時代に彫られた日本最古の五百羅漢石仏が迎えてくれます。山腹に中津藩主が築いた「指月庵」庭園は、文人画人達が眺望を愛でつつ酒を酌み交わし創作をする場でもありました。

【岩窓にさす光、断崖からの眺望－青の洞門・競秀峰－】

羅漢寺から下った山国川沿いには、屏風を立て並べたように折れ重なる巨大な岸壁「競秀峰」が現れます。この岩壁沿いの道から川に落ち命をなくす人々を救うため、約 200 年前の江戸時代、「禅海和尚」は 30 年かけてトンネル「青の洞門」を掘りました。岩窓からさす光に照らされた無数のノミ跡から和尚の熱い想いが伝わる洞門の暗がりを抜けると、競秀峰の尾根道から見渡す眼下に断崖と溪流が織りなす絶景が広がります。ここは「福澤諭吉」が土地を買い開発から守った景勝地です。

【岩峰せまる神秘の谷－深耶馬溪－】

川沿いの青の洞門を登り玖珠へ向けて奥深く分け入ると、岩峰が覆いかぶさるように迫る溪谷に入ります。ここは約 120 年前の明治時代、中津出身で玖珠郡長の「村上田長」が困難を乗り越え中津と玖珠をつなぐ道路を開鑿して姿を現した秘境「深耶馬溪」です。切り立った奇峰に八方ぐるりと囲まれる「一目八景」、いくつもの一枚岩の滝が連続し薄暗い谷底から見上げる細い空に岩峰がそびえる「麗谷」や「大谷溪谷」の神秘的な空間は「天下の勝地」と呼ばれ新しい観光地となりました。

【テーブルマウンテンに囲まれた町－玖珠の森城下町－】

細くほの暗い深耶馬溪を抜け視界が突然開けると櫛歯状の断崖「大岩扇山」が出迎え、日本一小さな城下町とよばれる「角埋山」麓の森城下



八面山にある雨乞い伝説の巨石



五百羅漢が安置された岩窟



諭吉が守った景観



一目八景の奇峰



庭園から望む大岩扇山

町に辿りつきます。明治時代の大火を乗り越え 100 年前耶馬溪観光の出入口として再興した城下町の中心は、城の構えを持つ神社に、巨石を大胆に展開する藩主の庭園。奇峰の谷から一転「伐株山」をはじめとしたテーブル状の山並みに包まれると巨大な箱庭に迷い込んだ心地がします。

【石柱が天を突く河童の隠れ里－裏耶馬溪・奥耶馬溪－】

森城下町から西に回遊すると、よきによきと伸びる石柱群の裾に集落が寄り添う「裏耶馬溪」に到着し、さらに西へ山国川を遡った先の源流の地「奥耶馬溪」では、石が何万年もの時をかけ川底に穴をあけた甌穴群の水辺が続きます。川の音しか聞こえない自然の中の温泉と暖かなすっぽん料理が旅人を癒し、奥深い谷や岩窟は落人伝説を生み、あちこちの谷で平家の落人が子河童となり登場する河童祭りが伝えられています。のどかな楽の音にのり飛び跳ね、いたずらをしてはカラフルな大団扇で追い詰められる子河童たちが住む里です。

【馬溪翁の町－平田集落－】

こうした耶馬溪の歴史・文化を熟知し耶馬溪に尽した「平田吉胤」は、大正時代、平田集落に駅や郵便局を建て石橋をかけ水路を引き寺社を復興し耶馬溪の中心集落として作り上げました。「馬溪翁」と称された吉胤は、町づくりの仕上げに二階建ての自宅に三階をのせ景観を見せる場としました。耶馬溪の迎賓館でもあった三階の間の窓は広々と三方に開かれ、窓越しに見る平田氏のものだった山々は座敷の障壁画のようです。

【一つになった耶馬溪】

古来より文人画人を惹きつけ、あまたの絵が、詩が、文学が生まれた溪谷で、奇岩奇峰に包まれ暮らす人々は、岩から仏、寺院、石橋、庭園・・・と優れた作品を生み出し、大地に配していきました。トンネルを掘り、道を開き、観光列車「耶馬溪鉄道」をひき、探勝道を巡らせ、日本一の長さを競う石のアーチ橋を次々と架けることでそれぞれの作品を回遊路で一つになぎ、自由に廻れるようにした大正時代の終わり、ついに天下無二の芸術作品「耶馬溪」が完成しました。中津駅周辺には料亭が建ち並び、翌朝から耶馬溪へ発つ観光客は鱧料理をはじめとした豊前海の魚に舌鼓を打ち、霊泉（温泉）巡りツアーも開催されました。平家の落人が伝えた蕎麦は耶馬溪名物となり、溪谷の茶屋では蕎麦をゆでる湯気が立ち上るようになりました。さらに、昭和初期の豊後森駅開業で新たな耶馬溪の玄関口ができ、玖珠町側からも回遊できるようになりました。

このように耶馬溪には 100 年前の大正時代の観光客が楽しんだ山水画のような景観、温泉、無数の探勝道がちりばめられています。文人画人が舌鼓を打った川魚や猪鹿料理、巻柿や羅漢寺土産だった栗饅頭を楽しみながら、中津から玖珠へ、玖珠から中津へ。自動車・自転車・自らの足で、大地に描かれた山水絵巻に入り込み、空から谷底から、回遊路を巡りまた次の探勝道へ。時をかけ季節をかえて、次々と場面が展開する耶馬溪遊覧の旅をお楽しみください。



溪流の甌穴群



河童祭り（追いつめられる子河童）



三階建てに改造した平田邸



豊後森駅の旧機関庫



耶馬溪の大パノラマを望む

ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
1	やばけい 名勝耶馬溪	国名勝	中津～玖珠間にある、山国川とその支流が溶岩台地を深く浸食して作りだした奇岩の溪谷。	中津市 玖珠町
【巨石伝説の山－八面山－】				
2	はちめんざん 八面山と八面山探勝道	一部国名勝 (名勝耶馬溪)	テーブル状の八面山は古代信仰の山で点在する巨石はいくつもの伝説を持つ。巨石群や石塔、修験の滝などを巡り頂に登ると周防灘から耶馬溪、玖珠までの眺望が広がる。	中津市
【絶壁をつたい仏に会う－羅漢寺・古羅漢－】				
3	羅漢寺と羅漢寺探勝道 ①羅漢寺・羅漢寺探勝道	一部国名勝 (名勝耶馬溪)	1338年開山の日本国内の羅漢寺の総本山。山全体に配置された無数の石仏、天然の石橋や窟をたどることで仏教の教えを体感できる探勝道となっている。	中津市
	②五百羅漢石仏	国重文	山道の階段や探勝道の崖を這い上りつづいた先の岩窟で、日本最古の五百羅漢石仏が出迎えてくれる。	中津市
	しげつあん ③指月庵庭園	一部国名勝 (名勝耶馬溪)	中津藩主小笠原氏によって、羅漢寺の奥の断崖にはりつくように造られた庭園。庭園から見渡す谷の一角には、古羅漢のごつごつとした岩山が盛り上がる。	中津市
4	ふるらかん 古羅漢と古羅漢探勝道 ①古羅漢と古羅漢探勝道	一部国名勝 (名勝耶馬溪)	羅漢寺対岸の霊峰。ごつごつとした岩山が盛り上がる異様な景観。探勝道で窟や、お堂、石仏、石塔などをまわる。	中津市
	②古羅漢石造観音菩薩坐像	県有形	古羅漢に架けられたお堂に安置された石仏。石仏の膝から正平17年(1362)年銘が入ったお経と歯が発見され、羅漢寺石仏の基準作となった。	中津市
【岩窓にさす光、断崖からの眺望－青の洞門・競秀峰－】				
5	青の洞門関連遺産 あお どうもん ①青の洞門	県史跡	18世紀、川の栈橋から落ち命を落とす人々を見て、羅漢寺の禅海和尚が村人とともに30年かけほりあげたトンネル。対岸から見る絶壁に並ぶ岩窓と洞内の岩窓から覗く景色が楽しめる。	中津市
	ぜんかいどう ②禅海堂	未指定	大正14年、参道沿いの禅海和尚の墓前に造られた堂。	中津市

	せきぞうもんじゅぼさつぞう ③石造文殊菩薩坐像 (禅海和尚の墓) つげたりぜんかいおしょういひん 附伝禅海和尚遺品	市有形	石造文殊菩薩坐像は、旧参道沿いの窟に禅海和尚自身が生前墓として製作させたもの。禅海和尚遺品は、和尚が洞門を掘った時の道具や持ち物。	中津市
6	きょうしゅうほう 競秀峰と競秀峰探勝道 ①競秀峰と競秀峰探勝道	一部国名勝 (名勝耶馬溪)	山国川右岸に起立する岩峰群は約1kmに渡る迫力ある景観で、巨大な屏風を立て並べたよう。尾根伝いの探勝道は窟や鎖場、仏をめぐる祈りの道。	中津市
	もくぞうみょうけんぼさつぞう ②木造妙見菩薩坐像	県有形	競秀峰探勝道にある妙見窟に安置された平安時代の木造物。	中津市
7	ふくざわ 福澤家土地台帳	未指定	競秀峰の景一帯の土地を開発から守るため、福澤諭吉が土地を買い上げた記録となる土地台帳。	中津市
【岩峰せまる神秘の谷ー深耶馬溪ー】				
8	でんちょう 村上田長 関連遺産 ①村上医家史料館	市史跡	田長が暮らした江戸後期建築の村上家そのままの内部を楽しむことができる史料館。	中津市
	②中津玖珠道関係資料 a 明治期の玖珠郡地図 b 深耶馬溪道路地図 c 明治21年玖珠郡長日誌 d 村上田長表彰状	未指定	a. 手書きの地図。田長が新道開通を目指し現地調査を行ったもの。 b. 道路設計図の写し。中津玖珠間の道と、急峻な勾配への対策として設計された国内最古のループ橋「舞鶴橋」の図面。 c. 玖珠郡長時代の田長が記した日誌。中津玖珠道路の開通を巡って苦労している様子がうかがえる。 d 村上田長の死後、大正12年に玖珠郡から田長におくられた感謝状。新道開発が流通・観光に役立ったことへの感謝の言葉が綴られている。	中津市
	③村上田長 頌徳碑	未指定	中津～玖珠間の道路開鑿に奔走した玖珠郡長の村上田長の功績をたたえる石碑。昭和15年、中津と玖珠の境界に建てられた。	玖珠町
9	ひとめはつけい しんやばけい 一目八景と深耶馬溪探勝道 ①一目八景	一部国名勝 (名勝耶馬溪)	一目八景は深耶馬溪の中心部で、土産物屋や茶屋が並ぶ。一か所にいて八方を奇怪な岩峰に囲まれることから一目八景と呼ばれる。	中津市 玖珠町
	うつくしたに ②麗谷探勝道	一部国名勝 (名勝耶馬溪)	麗谷の谷底を歩く上級者向けの探勝道でいくつものスロープのような滝が連続し神秘的な風景が展開する。	中津市 玖珠町

	③大谷溪谷 <small>おおたに</small>	未指定	一枚岩の浅瀬が10km続く谷で、初心者でも沢歩きが楽しめる。	中津市 玖珠町
【テーブルマウンテンに囲まれた町ー玖珠の森城下町ー】				
10	森町の庭園とテーブルマウンテン <small>きりかぶさん</small> ①伐株山	未指定	玖珠町で最も有名な「伐株山伝説」の舞台。山城だった山頂からはテーブルマウンテン(頂上がテーブルのように平らな山)に囲まれた玖珠盆地が一望でき、遠く中津市の八面山まで望める眺望は初三郎の鳥瞰図そのもの。	玖珠町
	②大岩扇山 <small>おおがんせんざん</small>	国天然	万年山、伐株山とともに玖珠町の地形を代表する印象的な山。深耶馬溪から風景が一変する象徴的な役割をはたす。	玖珠町
	③旧久留島氏庭園 <small>きゆうくるしまししていえん</small> a藩主御殿庭園 <small>はんしゅごてんていえん</small> b清水御門御茶屋庭園 <small>しみずごもんおちやていえん</small> c栖鳳楼庭園 <small>せいほうろうていえん</small>	国名勝	小藩ゆえに城をもてなかった藩主が城郭のように再興した神社と御殿に配置した庭園は、約100年前耶馬溪観光の入口として玖珠町の中心的な観光ポイントとなる。	玖珠町
	④角埋山と角牟礼城跡 <small>つのむれさん つのむれ</small> <small>じょうあと</small>	一部国名勝 (名勝耶馬溪) 国史跡	旧久留島氏庭園はこの城跡の麓にある。展望所からは伐株山をはじめとしたテーブルマウンテンに包まれる玖珠盆地が一望できる。	玖珠町
	⑤末廣神社 <small>すえひろじんじや</small>	一部県有形	大岩扇山を正面にして、森藩主の久留島氏が城郭化したと言われる境内を持つ。	玖珠町
11	森町の町並み ①酢屋 ②粕屋 ③かねじゅう館	①国登録有形 ②③未指定	久留島氏が整備した城下町。明治の大火で被災したが、玖珠郡庁が置かれ玖珠盆地を支える商業都市となった。大正時代、耶馬溪観光の入口としても栄えた。町には豪商の粕屋、酢屋等、明治末～大正期の歴史的建造物が多く残る。	玖珠町
【石柱が天を突く河童の隠れ里ー裏耶馬溪・奥耶馬溪ー】				
12	裏耶馬溪の景観	一部国名勝 (名勝耶馬溪)	によきによきと天にのびる細長い岩峰のすぐ近くに集落が広がる南面的風景が魅力。 平家の落人の伝説が残り、後藤又兵衛が身を隠したと言われる竈ヶ窟や又兵衛の墓がある、耶馬溪の中のさらなる「かくれ里」である。	中津市 玖珠町

13	河童祭り ①山下岩戸楽 ②瀧瀬楽 ③大浦楽 ④宮園楽 ⑤白地楽 ⑥木牟田楽 ⑦樋山路楽 ⑧二瀬楽 ⑨岩室楽	①②③ 県無形民俗 ④⑤ 市無形民俗 ⑥⑦⑧⑨ 未指定	河童となった平家の落人の霊を慰めるために始まったといわれる秋祭り。河童が登場する楽打ちはこの地域で独自に発展していったもの。いたずらをする子河童を大団扇でおいつめこらしめる。	④⑤⑦⑧ 中津市 ①②③⑥⑨ 玖珠町
14	耶馬溪温泉	未指定	耶馬溪は谷ごとにたくさんの温泉がある。溪谷の自然の中で温泉につかれば、川の音しか聞こえない別天地でくつろぐことができる。	中津市 玖珠町
15	さるとびせんつぼきょう 猿飛千壺峡～ まばやしきょう 魔林峡遊歩道	国天然 国名勝 (名勝耶馬溪)	山国川の源流近く、急流によって川の中の石が回転し、川底に無数の穴があいた甌穴(おうけつ)が群をなす不思議な景観。下流側の魔林峡から上流の猿飛千壺峡まで川沿いに遊歩道があり、石橋や吊り橋を渡りながら楽しめる。	中津市
【“馬溪翁”が描いた町－平田集落－】				
16	ひらたよしたね 平田吉胤関連遺産 ①平田家住宅	国登録	耶馬溪の名勝指定にも貢献した平田吉胤の住宅。周辺の景観を見せて客をもてなすために三階を増築した。耶馬溪の迎賓館的役割をもち、三階の間は三方全面が窓として開け、かつて平田家の土地であった山々が窓越しに障壁画のように展開する。	中津市
	ひらたよしたねおうしょうとくひ ②平田吉胤翁頌徳碑	未指定	石碑の文字は若槻禮次郎、碑文は国府犀東で、吉胤の耶馬溪への功績を記している。	中津市
	ひらたこじょうはっけい ③「平田古城八景」	未指定	田山花袋とともに耶馬溪を旅した小杉放庵が描いた平田城址からの風景画を集めて装丁し吉胤にプレゼントした冊子。平田邸や馬溪橋等が描かれている。	中津市
	やばけいずかん ④「耶馬溪図巻」	未指定	小杉放庵が、吉胤につれられて訪れた平田城址からの景色を中心に巻物にし、吉胤にお礼として贈ったもの。絵には平田城址でピクニックを楽しむ田山花袋一行と、彼らに説明する吉胤も描かれている。	中津市

17	<p>平田集落の町並み</p> <p>①旧耶馬溪鉄道</p> <p>平田駅ホーム</p> <p>②平田城址</p> <p>③城井八幡社</p> <p>④西浄寺</p> <p>⑤旧城井小学校</p> <p>⑥旧平田郵便局</p> <p>⑦久福寺</p>	<p>①国登録有形</p> <p>②市史跡</p> <p>③～⑦未指定</p>	<p>平田義胤は自宅のある平田集落に駅(平田駅ホーム)を造り、郵便局(旧平田郵便局)を他から移転させ、石橋(馬溪橋)をかけ、水路をひき、小学校(旧城井小学校)を整備し、寺社(城井八幡社・西浄寺・久福寺)を復興・再建させ、平田を耶馬溪の中心集落につくりあげた。平田氏の土地であった平田城址からは吉胤がつくった平田集落が一望できる。</p>	中津市
【一つになった耶馬溪】				
18	<p>旧耶馬溪鉄道関連遺産</p> <p>①旧耶馬溪鉄道線路跡</p>	未指定	<p>大正2年に開通した耶馬溪鉄道は多くの観光客を耶馬溪へ運んだ。全線廃止後は線路跡はサイクリングロードとなった。</p>	中津市
	<p>②旧耶馬溪鉄道</p> <p><small>あつがせ</small></p> <p>1号2号厚ヶ瀬トンネル</p>	国登録有形	<p>大正2年に建設された、旧耶馬溪鉄道のトンネルで、石とレンガ造りの馬蹄形。一号と二号のトンネルが連続する。</p>	中津市
19	<p><small>ちくしてい</small></p> <p>筑紫亭</p>	国登録有形	<p>明治34年創業、大正11年に大改修を行った木造三階建ての豪華な料亭。</p>	中津市
20	<p><small>やまくにやりよかん</small></p> <p>山国屋旅館</p>	未指定	<p>明治に建築された青の洞門近くの旅館。</p>	中津市
21	<p><small>ぶんごもりえき</small></p> <p>豊後森駅関連遺産</p> <p>①旧豊後森駅機関庫</p> <p><small>きかんこ</small></p> <p><small>きゅうぶんごもりきかんこてん</small></p> <p>旧豊後森機関庫転</p> <p><small>しゃだい</small></p> <p>車台</p>	国登録有形	<p>九大線のほぼ中間地にあり昭和9年の全線開通と同じ年に竣工した。これにより耶馬溪への鉄道でのアクセスは中津側からだけでなく、玖珠側からも可能となった。</p>	玖珠町
	<p>②豊後森駅</p>	未指定	<p>豊後森駅は昭和4年に開業。福岡方面からの耶馬溪観光客が降り立った。数少ない木造建築の駅舎は、当時のものを改築しながら現在まで伝わっている。</p>	玖珠町
22	<p>耶馬三橋</p> <p>①耶馬溪橋</p>	県有形	<p>大正12年3月に完成の日本唯一の8連橋。競秀峰の景を対岸から見せる観光用の橋で、長さ日本一。この橋により周回ルートができた。</p>	中津市

	②羅漢寺橋	県有形	大正9年完成の長さ日本3位の3連橋。羅漢寺駅に降りた羅漢寺参詣者が渡る橋となった。この橋により周回ルートができた。	中津市
	③馬溪橋 ばけい	市有形	大正12年完成の長さ日本4位の5連橋。平田吉胤が架けさせた橋。この橋により平田集落への周回ルートができた。平田集落の対岸から、溪流に五連の影を落とす美しい景観を見ることができる。	中津市
23	てんかむにやばぜんけい 「天下無二耶馬全溪の こうつうずえ 交通図絵」	未指定	日本の観光ブームをささえた吉田初三郎の鳥瞰図。大正14年に出版された、中津城下町から耶馬溪、玖珠までの道路、線路を描き、自動車で遊覧できる名所を描きこんだ観光案内図。	中津市
24	中津と玖珠の食 (海、山、川の恵み) ①中津の鱧料理 はも	未指定	一年中おいしい鱧がとれる中津では鱧料理が江戸時代から親しまれている。筑紫亭をはじめ、中津の料亭では鱧料理が盛んに提供される。	中津市
	②耶馬溪すっぽん料理	未指定	古来、耶馬溪を訪れた文人たちが味わった記録が残るアユやヤマメなどの川魚料理、うなぎやすっぽん料理は耶馬溪名物として親しまれてきた。	中津市
	③猪鹿料理	未指定	猪や鹿が多い耶馬溪では、古来、文人たちが味わった記録が残る猪肉や鹿肉を使った郷土料理が味わえる。	中津市
	④巻柿 まきがき	未指定	古来、耶馬溪を訪れた文人達が味わった記録が残る、干して吊るした柿を藁で巻き保存したお菓子。巻重ねており、輪切りにすると渦巻きの断面になる。	中津市
	⑤森町の栗饅頭	未指定	玖珠の森町の「七宝堂」は昭和元年創業で、羅漢寺土産としても売出された栗饅頭は今も玖珠の名物となっている。	玖珠町

【巨石伝説の山ー八面山ー】

2. 八面山と八面山探勝道



2八面山



2八面山探勝道(耶馬溪の山々を望む)



2八面山探勝道(周防灘を望む)



2八面山探勝道(中津平野を望む)



2八面山探勝道(伝説が伝わる巨石群)



2八面山探勝道(修験の滝)

【絶壁をつたい仏に会うー羅漢寺・古羅漢ー】

3. 羅漢寺と羅漢寺探勝道



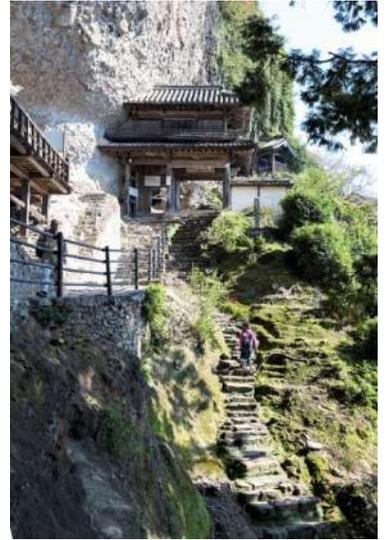
3-①羅漢寺探勝道(旧参道の石畳)



3-①羅漢寺探勝道(仁王門)



3-①羅漢寺探勝道(磨崖仏龕)



3-①羅漢寺探勝道(崖を登ると地藏菩薩に迎えられ、天然の石橋を渡ると弥勒菩薩があらわれる)

3-①羅漢寺探勝道(山門への階段)



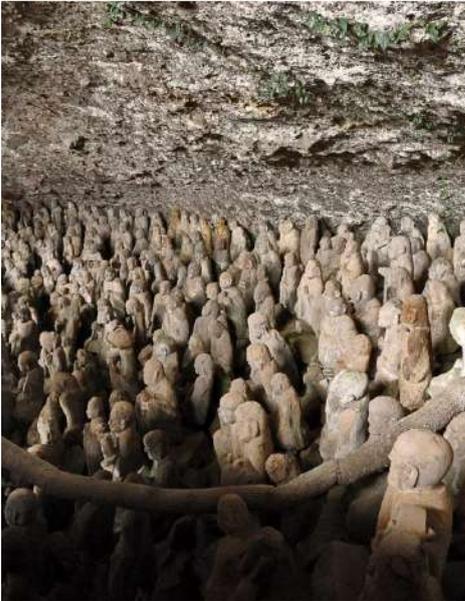
3-②五百羅漢石仏(五百羅漢を安置した岩窟。しゃもじに願い事を書

3-①羅漢寺本堂



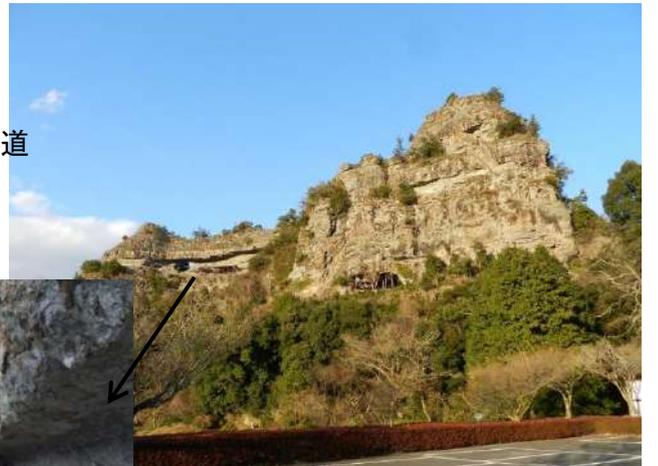
3-③指月庵庭園

雨の後だけ本堂前に滝が出現する



3-②五百羅漢石仏

4. 古羅漢と古羅漢探勝道



4-①古羅漢



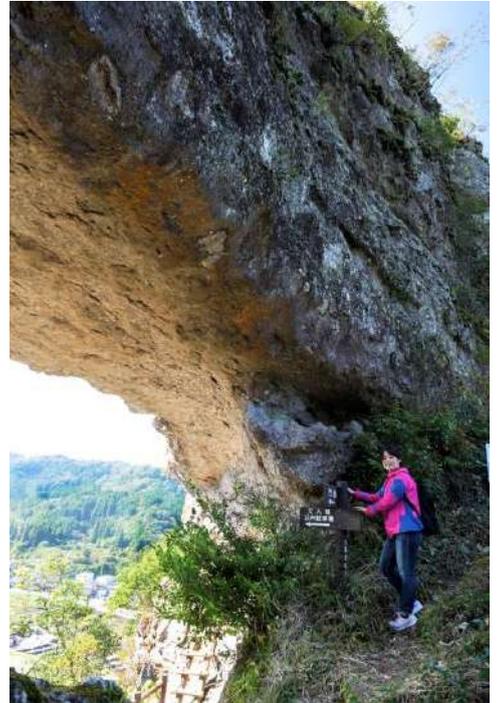
4-①古羅漢探勝道



4-①古羅漢探勝道(崖を登り、鎖をつたう)



古羅漢探勝道の頂に立つ古羅漢国東塔)



4-②古羅漢石造観音菩薩坐像・僧形像

【岩窓にさす光、断崖からの眺望—青の洞門・競秀峰】

5-②禅海堂

5. 青の洞門関連遺産



5-①青の洞門(岩窓)

歌川広重「六十余州名所図会」に描かれた洞門



5-③石造文殊菩薩坐像 附伝禅海和尚遺品(禅海堂に安置)

6. 競秀峰と競秀峰探勝道



6-①競秀峰(秋)(諭吉が守った景観)



6-①競秀峰(雪景色)



6-①競秀峰探勝道(展望所)



昭和初期の観光客

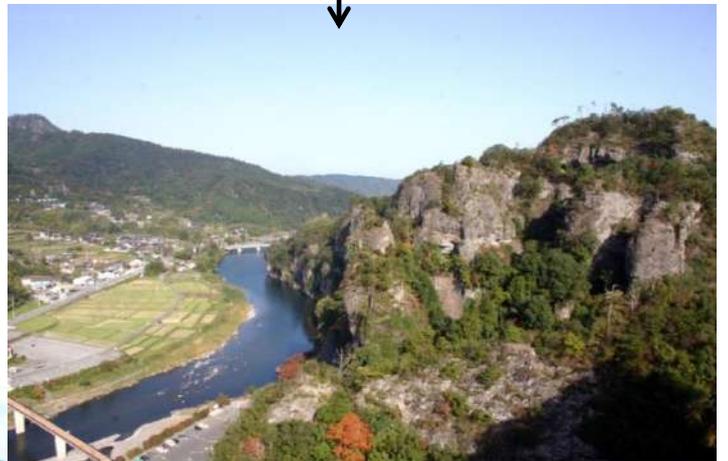
同じ展望所からの眺



6-①競秀峰探勝道入口の
“日本新三景の碑”



6-②木造妙見菩薩坐像



6-①競秀峰探勝道(諭吉が守った景観)

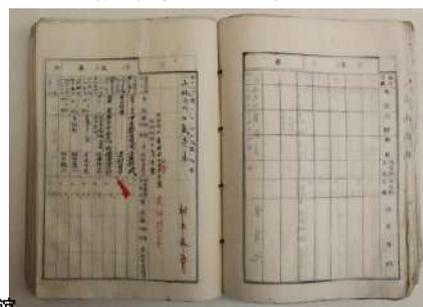


6-①競秀峰探勝道の尾根全景

7. 福澤家土地台帳



土地台帳を展示している福澤諭吉旧居・福澤記念館



【岩峰せまる神秘の谷－深耶馬溪－】

8. 村上田長関連遺産



8-①村上医家史料館



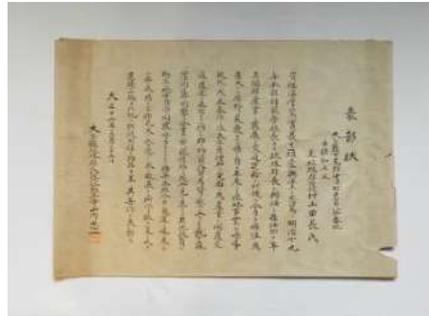
8-②中津玖珠道路関係資料(a 明治期の玖珠郡地図)



8-②中津玖珠道路関係資料
(b 深耶馬溪道路地図)



8-②中津玖珠道路関係資料
(c 明治21年玖珠郡長日誌)

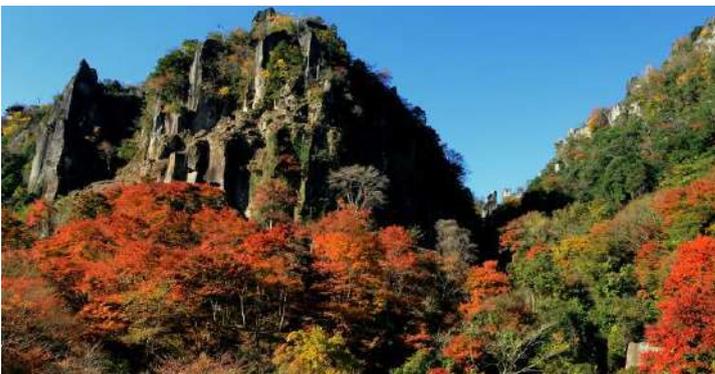


8-②中津玖珠道路関係資料
(d 村上田長表彰状)



8-③中津玖珠道路関係資料
(村上田長頌徳碑)

9. 一目八景と深耶馬溪探勝道

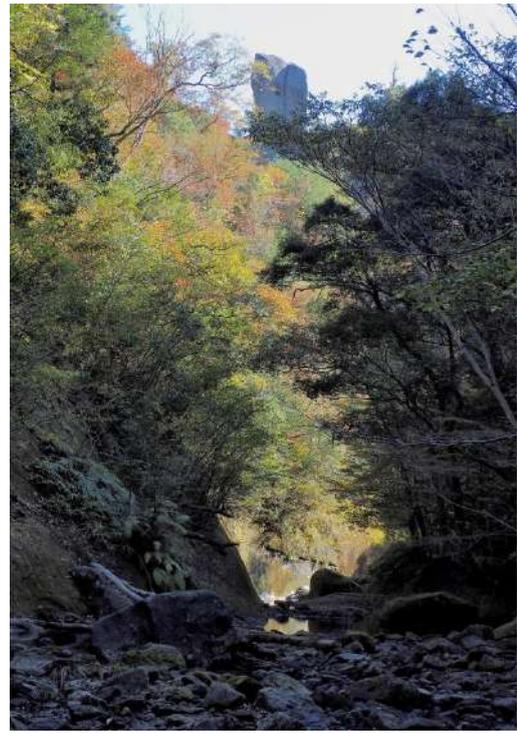


9-①一目八景(鳶ノ巣山の紅葉と雪景色)

9-①一目八景(茶屋の並ぶ深耶馬溪商店街と“ひさしもみじ”)



9-②麗谷探勝道(“水晶の滝”)



9-②麗谷探勝道(谷底から見上げた空にそびえる岩峰)



9-②麗谷探勝道(川中の転石が美しい造形を見せる)



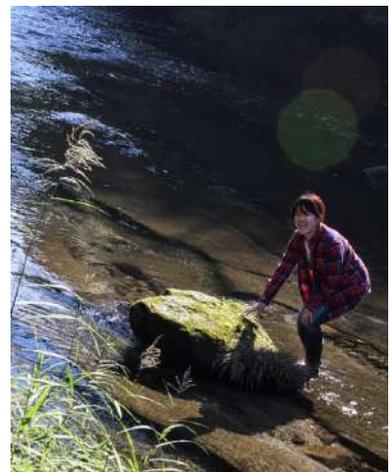
9-②麗谷探勝道(滑り台のような滝が連続する“布目の滝”)



9-②麗谷探勝道(一枚岩の浅瀬を徒歩でわたる)



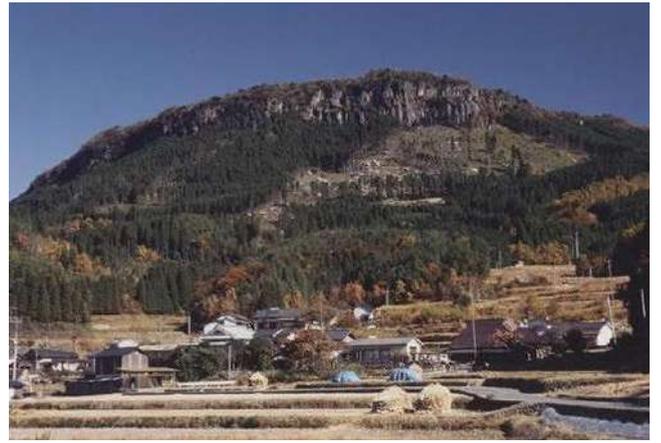
9-③大谷溪谷(初心者でも溪谷の沢歩きを楽しめる)



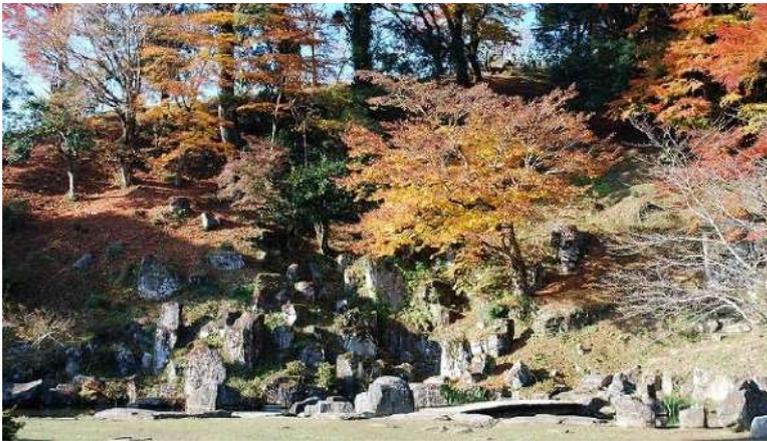
【テーブルマウンテンに囲まれた町ー玖珠の森城下町
10. 森町の庭園とテーブルマウンテン



10-①伐株山



10-②大岩扇山



10-③旧久留島氏庭園 a藩主御殿庭園



10-③旧久留島氏庭園から見た大岩扇山



10-③旧久留島氏庭園 b清水御門庭園と清水御門



10-③旧久留島氏庭園 c栖鳳楼庭園



旧久留島氏庭園近くにある
田山花袋歌碑



10-④角埋山の角牟礼城跡



10-⑤末廣神社(城郭化した境内を持つ)



角牟礼城跡から見た森町全景

11. 森町の町並み



11-①酢屋



11-②粕谷



11-③かねじゅう館煉瓦蔵



明治末～大正期の建物が多く残る森町の町並み

【石柱が天を突く河童の隠れ里－裏耶馬溪・奥耶馬溪－】

12. 裏耶馬溪の景観



鶴ヶ原



立羽田



宇土



裏耶馬溪の岩峰遠望



伊福



13-③大浦楽



13-④宮園楽

13. 河童祭り



13-⑧二瀬楽の子河童

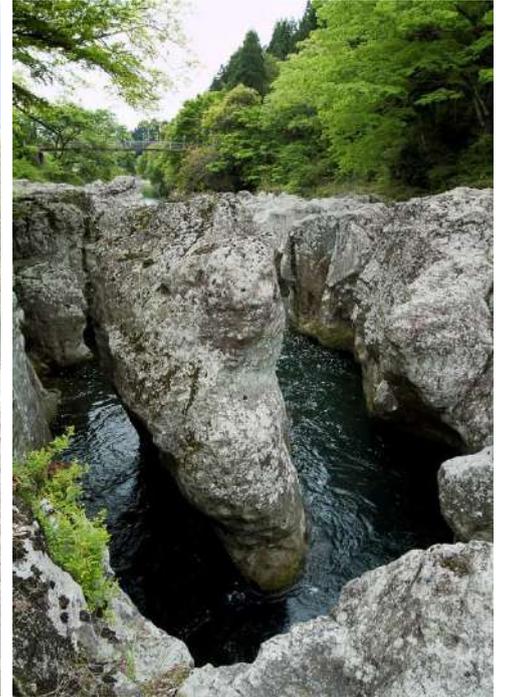
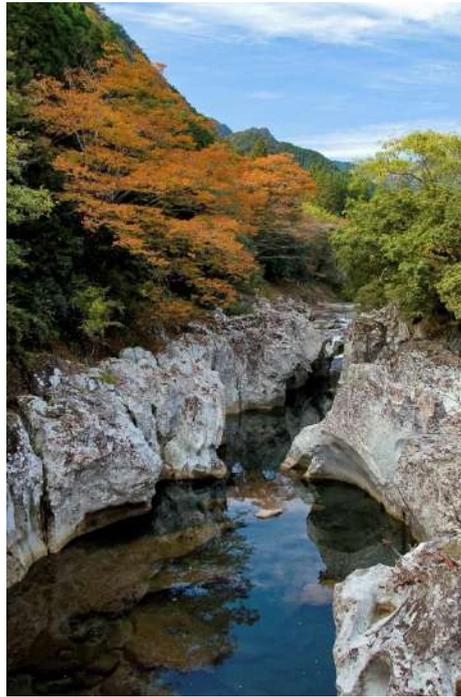
14. 耶馬溪温泉(自然の中の温泉)



深耶馬溪

裏耶馬溪(大谷溪谷)

15. 猿飛千壺峡～魔林峡遊歩道



夏の猿飛千壺峡

秋の猿飛千壺峡

甌穴群



山国川源流

吊り橋



摩林峡の念仏橋

【馬溪翁の町ー平田集落ー】

16. 平田吉胤関連遺産



16-①平田家住宅



16-③「平田古城八景」

16-④「耶馬溪図巻」

17. 平田集落の町並み



16-②平田吉胤頌徳碑



17-①旧平田駅ホーム



17-③城井神社



17-④西浄寺とその奥の②平田城址



17-⑤旧城井小学校



17-⑥旧平田郵便局



馬溪橋(左)と平田集落遠景(右端が平田城址)



17-⑦久福寺のお堂と平田吉胤の名が残る天井画

【一つになった耶馬溪】

18. 旧耶馬溪鉄道関連遺産



鉄橋跡の自転車道



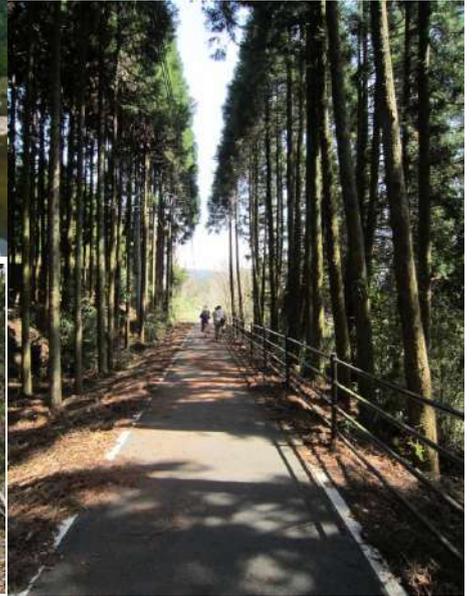
18-①旧耶馬溪鉄道線路跡
(現在はサイクリングロードとなっている)



18-②1号2号厚ヶ瀬トンネル(自転車道)



切通しの自転車道



杉木立の自転車道

19. 筑紫亭



20. 山国屋旅館



21. 豊後森駅関連遺産



21-①旧豊後森駅機関庫と転車台



21-②豊後森駅

22. 耶馬三橋



22-①耶馬溪橋(長さ日本1位)



22-②羅漢寺橋(長さ日本3位)



22-③馬溪橋(長さ日本4位)

23. 「天下無二 耶馬全溪の交通図絵」



24. 中津と玖珠の食(海、川、山の恵み)



24-①中津の鰯料理



24-⑤森町の栗饅頭



24-②耶馬溪すっぽん料理



ぼたん鍋

24-③猪鹿料理



鹿の焼肉



24-④巻柿



巻柿が描かれた大正15年の画



滝めぐり(左が落合の滝・右が清水瀑園)



玖珠町の伐株山から耶馬溪の大パノラマを堪能



桜と溪流(冠石野)



ホタル狩り



紅葉狩り(御霊神社)



アユ釣り



山城めぐり(長岩城址)

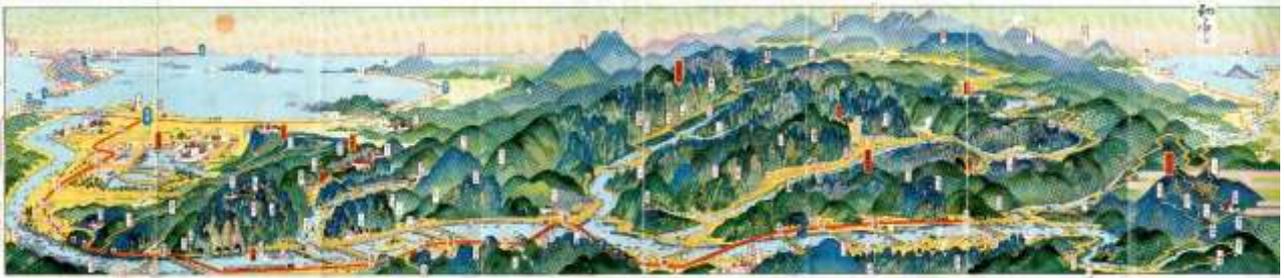
日本遺産を通じた地域活性化計画

認定番号	日本遺産のタイトル
54	やばけい遊覧～大地に描いた山水絵巻の道をゆく～

(1) 将来像 (ビジョン)

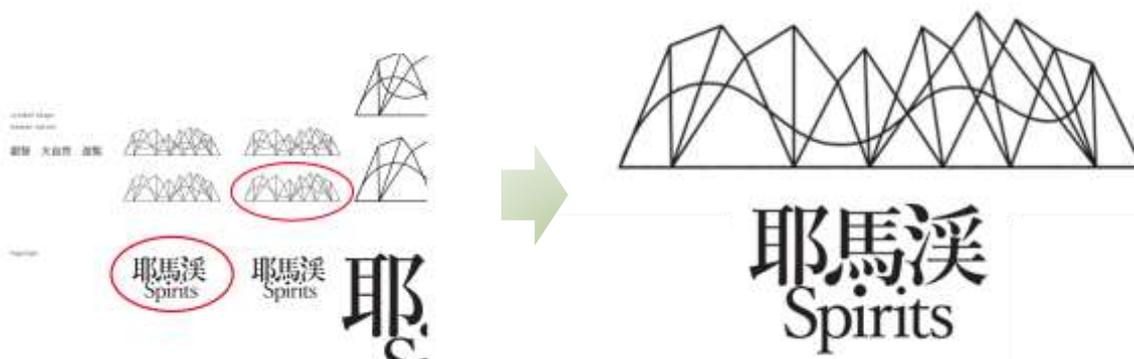
(1) 「やばけい遊覧」の特徴・強み、これまでの取り組み

大分県の北部にある中津市と玖珠町にまたがる広大なエリアは、主流・山国川が溶岩台地を浸食してつくられた渓谷、石柱の断崖、岩窟、滝、巨石などの大自然を作り上げている景観と、仏像、石橋、洞門、庭園など、人工的に作られた歴史的資産が織りなす、「天下の奇勝」耶馬溪（やばけい）と云われる地域。エリア内の各地区にはそうした様々な資源が点在、いたるところに「奇観」がある。こうした各地区を回遊路で結び、一本の山水画のように美しい絵巻物のような耶馬溪の風景のなかを遊覧する旅人を地域に誘い、ガイドするようなストーリー、それが平成 29 年に日本遺産に認定された「やばけい遊覧」である。各時代・各地区を保存に尽力した地域の偉人、地域の自然が産み出す農水産物を活かして独自に発達した食、など、地域の歴史・文化の魅力を伝えるものとなっている。



「天下無二耶馬全溪の交通図絵」吉田初三郎筆

両市町は日本遺産の認定を機に、まず、耶馬溪地域の魅力を地域の中と外の人に伝える取り組みに着手した。先述の壮大な自然景観、その景観を残すことに尽力した先人の叡智、それらを守り、地域に暮らす人々の活動を競秀峰のシルエットに遊覧の曲線をあわせたロゴに、そうしたアイデンティティを伝えていく意思を“耶馬溪 Spirits”としてキャッチコピーに込め、日本遺産事業を中心とした地域の様々な活動で訴求していくブランディングを展開していくこととした。



“耶馬溪 Spirits” ロゴの誕生

これ以降、これらのキャッチコピーやロゴを活用しながら、「やばけい遊覧」のストーリーを通じてこの地域に点在する魅力を活用・発信していくために、民間の有志と中津玖珠日本遺産推進協議会（以下「協議会」という）メンバーが議論しながら、構成文化財における受入環境整備や普及啓発、更には観光事業化を図る様々な取り組みを進めてきた。その一環として、「やばけい遊覧」で伝える地域の素晴らしい景観、海と山が織りなす食の文化などを、地域の民間プレイヤーが伝える体験型観光プログラムとして「やばはく」を2021年に展開を始めた。現在「やばはく」は、春と秋の年に2回、耶馬溪エリアの各地区で開催される“オンパク”形式のプログラムとなっている。

以上に述べてきた活動を中心として、協議会では普及啓発、情報発信、活用整備の3つの分野で日本遺産の事業を進めてきた。1つ目の普及啓発については、地域の、特に次代を担う児童への訴求に力を入れ、耶馬溪の特徴的な地形を含む景勝地の成り立ちについて、地学の知識とともに学ぶ子ども向けの地質講座を開催したり、「こどもガイド」の養成に取り組むなど、事業を通して、子どもたちへの郷土の歴史文化への愛着が醸成されるような啓発活動を展開してきた。

2つ目の情報発信については、前述の「やばはく」を中心とした日本遺産を活用した地域のPRに注力してきた。「やばはく」は現在まで5回開催され、福岡などの主に九州内の主要な都市からのアクセスの良さや素晴らしい景観、豊富な歴史的コンテンツの多さなどを気軽に体験することが出来る点を参加者に大変高く評価されている。企画・運営を地域の方と行政が協働して担い、直接ガイドや体験メニューを実施している点が評価され、令和4年度「スポーツ文化ツーリズムアワード2022」では文化ツーリズム賞を受賞、日本遺産のユニークな活用方法として「やばはく」が高く評価されるに至った。

3つ目の活用整備については、日本遺産を構成している各構成文化財への案内看板の設置、実際に来られる方への受け入れ整備を行った。耶馬溪エリアの中心に位置する中津市本耶馬溪町の耶馬溪風物館を日本遺産センターとして整備し、より日本遺産を深く知るための中核拠点として整備した。

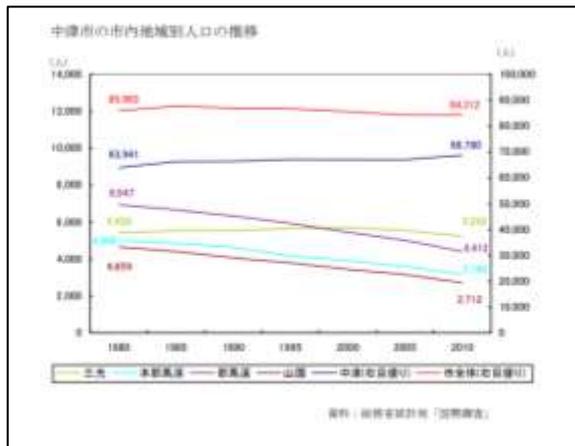
こうした日本遺産事業の取り組みは、協議会を構成する両市町の重要指針の1つとして位置づけられ、中津市においては総合計画（第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略）の中で、特に国際化・インバウンド誘客推進の主要施策として「やばけい遊覧」を活用した誘客、交流人口や関係人口の拡大という内容が計画に盛り込まれ、玖珠町においては第6次総合計画の中で、文化財の保護と活用の中の重点施策として、それぞれ位置づけられている。

（2）今後の方向性の検討：地域や事業の課題整理

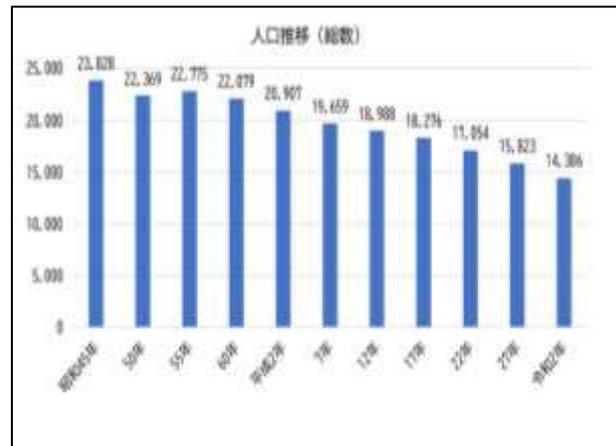
以上の通り、日本遺産認定後にいくつかの実績、効果を上げてきたこと本事業において、これまでの成果を土台として、更なる成果をあげ地域活性化を推進すべく次の3カ年をスコープとした本計画を策定する。それにあたり本項では、本事業の取り組みに関連する社会トレンドを概観し、またこれまで6年間の本事業の取り組みを経た課題を整理することにより、今後の取組の方向性や重点を検討する。

■中津市・玖珠町の人口推移、関係人口増加に向けたヒント

人口減少、少子高齢化、それに起因する地域の産業における担い手・人材の不足など、全国的な課題として捉えられている問題は、中津市ならびに玖珠町においても同様に、深刻な課題となっている。



中津市の人口推移



玖珠町の人口推移

両市町とも人口は右肩下がり（中津市は特に構成文化財が点在する耶馬溪エリア）で減少しており、こうした傾向を改善し、地域経営の維持を図るためにも、地域づくりや観光推進を通じて、関係人口の拡大を進めていくことが両市町における重要な政策目標となっている。両市町における日本遺産事業もこうした目標を実現するための政策のひとつとして位置付けられていることから、本計画を検討するにあたり、関係人口の拡大等に関する、現在の社会背景の整理を行った。

ここ数年の新型コロナウイルスの影響によって社会各層において様々な意識の変化が起きたが、そのひとつとして、都市よりも環境のよい地方への関心が増加したことが挙げられる。コロナ禍の前から高まってきた多拠点居住や地方への移住などのニーズが大きくなり、ワーケーションなど新たな旅のかたち、ライフスタイルが注目を集めるようになってきた。

コロナ禍前、平成においても出かけた先での「体験」が目的の観光が展開されてきたが、コロナ禍を経た令和の観光においては、こうした地方への関心の高まりを受けて、更に深い体験、地域住民との「交流」を求める傾向になってきている（※1参照）。また、コロナ禍前よりシニア層を中心に移住への関心は高まっていたが、コロナ禍の影響による自然環境へのニーズの高まり、地方へあこがれ意識が若い世代にも広がりを見せた。「暮らすように旅する」ワーケーションへが広がるにつれ、地域に住む人との接点、交流についてのニーズも高まってきた。こうした、地域における体験や住民との交流は、地域外に地域のファン獲得につながることも多く、前述の関係人口の増加を図る目標を追求するうえで重要な視点、要素となってきている。

※1参照

- ・観光庁「第2のふるさとづくりプロジェクト」

<https://www.mlit.go.jp/kankoch/shisaku/kankochi/anehometown.html>

- ・(株)リクルートのブログ (2022.03.18 Fri)【コレカラ会議】

「コロナ禍で生まれた『こころの故郷さがし』、旅から始まる、新しい地方創生の兆し」

https://www.recruit.co.jp/blog/service/20220318_3146.html

■日本遺産事業の現状課題

日本遺産事業として「やばはく」の実施による観光事業強化、地域の子どもたちへの学習体験を通じた普及啓発、日本遺産センターの設置や看板整備などのストーリーを伝える整備を進めてきたが、本事業において目指す「地域自走」の達成、次の3年、それ以降における地域活性化への寄与を考えるにあたり、協議会としてこれまでの取り組みの振り返りを行い、これまでに日本遺産プロデューサー等、外

部の専門家から受けた指摘・評価なども踏まえ、次に挙げる3つを取り組むべき優先度の高い課題として整理するに至った。

1、「体制整備と地域民間人材の見出し」

これまで、ほぼ全員が行政の職員である事務局が中心となって、商品開発、情報発信などを進めてきた。「やばはく」においては地域の官民協働で取り組みができつつあるが、本事業や地域活性化の取り組みを継続的に行うことを考えた場合に、地域の民間人材の巻き込みや役割の拡大の程度はまだ低いといわざるを得ない。事業の企画・推進、地域における収益の拡大、情報発信などを継続的に行っていくためにも、民間の役割の拡大、官民一体となった役割分担は欠かせない。こうした問題意識から、本事業において、持続可能性を高めるためにも、民間人材の発掘拡大、官民の役割分担の明確化を進め、地域の民間プレイヤーを巻き込んだ体制作りが必要であり、急務と考えている。

2、「周遊する仕掛け作り」

「やばはく」はこれまで順調に展開され、地域内に点在する各構成文化財の周知や集客に寄与している一方で、地域の観光全体としては依然として日帰りや短時間での滞在が殆どであり、観光消費額が上がらずにいる現状がある。これらを上げ収益力を高めるためにも、宿泊施設や移動手段、体験アクティビティなどを整備していくことが必要であると認識している。本事業においては特に、体験に関連するアクティビティを整備・拡大することに貢献できると考え、エリア内に点在する各構成文化財を結び周遊につなげていくアクティビティ、プログラムを開発。こうした取り組みが、滞在時間を延ばすとともに、地域住民との交流を図ることで地域のファンを増やし、長期滞在やワーケーションなども促進して、中長期的に関係人口増加を図る取り組みの重要度が高いと考えている。

3、「地域住民への普及啓発の推進」

本事業において重視することとして、地域住民の郷土愛の涵養（かんよう）、醸成がある。現在、協議会では子ども向けにいくつか取り組んできているものの、継続性と地域全体への広がりの中でまだ課題が多く、大人向けの普及啓発に至ってはかなり不足していると捉えている。地域を訪れる地域外の方との交流においても、地域の歴史・文化に誇りをもつ地域住民の存在は極めて重要である。こうしたことから協議会では、これまで以上に地域の子どもたちへの普及啓発を徹底し、また、中年層を中心とした大人向けの普及啓発も強化していくことで、この課題の解消、インナーブランディングの強化を図っていくべきと考えている。

以上の課題や関連する社会的なトレンドを踏まえ、次節では、日本遺産を通じて、これらの課題解決をはかり、実現したい地域の姿を考察、整理していく。

(3) 日本遺産を通じて実現したい地域の姿

「やばけい遊覧」は認定以後、前述の通り、嗜好性調査など地域内外への戦略的な訴求の為の調査・戦略策定、ワールドカフェの実施による地域住民への周知強化、まちづくり活動に取り組む地域プレイヤーとの連携などを通じて、「やばはく」に代表される観光事業の展開や情報発信に力を入れてきた。

これらの取り組みに対する評価も高く、その地形や歴史上の特徴を活かした「身近にある秘境」としてのユニークな特徴の認知強化も断続的に行われてきた。

一方で、地域の現状をみるに、そうして取り組んできた地域の巻き込みや普及啓発については依然として十分でなく、日本遺産事業を通じて、市民が地域活性化の取り組みに参画し、郷土愛をも持っている状態とは言い難い。

前述の通り、関係人口の増加を図るために、地域住民との「交流」が重要であるが、その地域住民自身が、地域の歴史・文化を十分に理解し、愛着を持っていなければ、地域外の関係人口予備軍に対して魅力を伝えきれず、地域に対する共感と地域のファンになる状況を生むことは難しい。

こうしたことなどから、現在策定している計画が終了する3年後には、ある程度の割合で日本遺産事業が地域に浸透している状態になっていることが求められる。

そうした課題認識を土台に、協議会では令和4年度に日本遺産事業を通じて地域がどのような姿になることを目指すのかについて議論を続けてきた。その議論の帰結として、地域住民による「やばけい」への愛着の醸成、地域一体となった取り組みが重要であることで認識が一致した。そして、「やばけい遊覧」を土台とした地域内での歴史・文化資源の活用による地域活性化の持続、地域自走と循環を生み出すために、将来のあるべき姿としてビジョン、その実現のための方向性、重点取り組みとしての3つの柱を議論・整理した。

やばけい遊覧による地域ビジョン

やばけい遊覧を通じて、100年先も地域から愛され
郷土愛に満ちあふれた魅力ある地域を目指す

ビジョン実現に向けた3つの柱



本事業を通じて、地域の住民や地域で活躍するプレイヤーが「やばけい」の歴史・文化を共有し、愛着を持ち、自ら伝え、活かすことでシビックプライドを醸成することを支援し、地域外にも「やばけい」への関心と共感が伝わっていくよう取り組んでいく。

(2) 地域活性化計画における目標

※各目標に対し、複数の指標を設定可

目標①：地域住民や国内外からの来訪者が日本遺産のストーリーに触れ、その魅力を体験すること。						
指標①-A：やばはくの参加者数						
年度	実績			目標		
	2020	2021	2022	2023	2024	2025
数値	-	3,395名	375名	3,000名	3,250名	3,500名
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法		日本遺産に直接五感で触れることが出来る観光体験プログラム「やばはく」への参加者数を数値として設定する。《参考》やばはく事業は2021年の春からスタート。毎年、春と秋の年2回の開催。				

目標①：地域住民や国内外からの来訪者が日本遺産のストーリーに触れ、その魅力を体験すること						
指標①-B：日本遺産センターの来館者数						
年度	実績			目標		
	2020	2021	2022	2023	2024	2025
数値	2,314名	3,606名	6,960名	10,000名	11,000名	12,000名
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法		平成30年に設置した日本遺産センターは、上記の「やばはく」同様、ストーリーを学ぶことが出来る場である。アンケートなどを実施し、満足度や理解度を図っていく。				

目標②：地域において日本遺産のストーリーが誇りに思われること						
指標②-A：子ども向け地質講座ならびに新たな歴史学級の開催により理解を深めた参加した児童の参加合計数						
年度	実績			目標		
	2020	2021	2022	2023	2024	2025
数値	24名	6名	136名	100名	100名	100名
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法		これまで開催してきた子ども向け地質講座を2022年度からは、歴史を学ぶ「歴史学級」も取り入れ、郷土愛を持つ子どもたちを増やす取り組みを行っている。				

目標③：日本遺産を活用した事業により、経済効果が生じること						
指標③-A：ロングステイによる宿泊者数（※2泊以上をロングステイと位置付ける）						
年度	実績			目標		
	2020	2021	2022	2023	2024	2025

数値	-	-	-	10名	20名	30名
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	耶馬溪町内の宿泊施設（ほのぼの茶屋、民宿竹井、古民家茶房福来朗、みどりさん家、B & G海洋センター等）を設定し宿泊者数をカウントしていく。					

目標④：日本遺産のストーリー・構成文化財の持続的な保存・活用が行われること						
指標④－A：日本遺産事業による収益を保存・活用に充てた事業の実施数						
年度	実績			目標		
	2020	2021	2022	2023	2024	2025
数値	-	-	-	2件	4件	6件
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	各構成文化財を保存・活用を進めていく地域が主体となった新たな団体の発足数を設定し、協議会と連携して把握を行っていく。					

目標⑤：地域への経済効果も含め広く波及効果が生じること						
指標⑤－A：日本遺産事業「やばはく」における事業者の収入額						
年度	実績			目標		
	2020	2021	2022	2023	2024	2025
数値	-	1,423,700円	1,346,600円	1,500,000円	2,000,000円	2,500,000円
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	「やばはく」で得られる事業者の収入額を数値として設定し、直接的な経済効果を確認できるようにする。					

(3) 地域活性化のための取組の概要

耶馬溪地域の特性・強みを考え、ビジョンの実現にあたり、ターゲットの設定、そしてターゲットに対してどのような事業を展開するかについての概要を記載する。

(1) 本事業のターゲット

前述の通り、「やばはく」によって、九州を中心に近隣エリアにおける認知は高まってきたが、コロナ禍のなかでの開催であったことなどにより、来訪者数の面ではまだ十分とは言えない。関係人口の増加を目指すにあたり、耶馬溪と「やばけい遊覧」の認知向上は依然として重要な目標である。また、中津市・玖珠町双方の住民においてもまだまだ「やばけい遊覧」の認知度は高いとは言えず、郷土愛の醸成ができたといえるには遠い状況である。

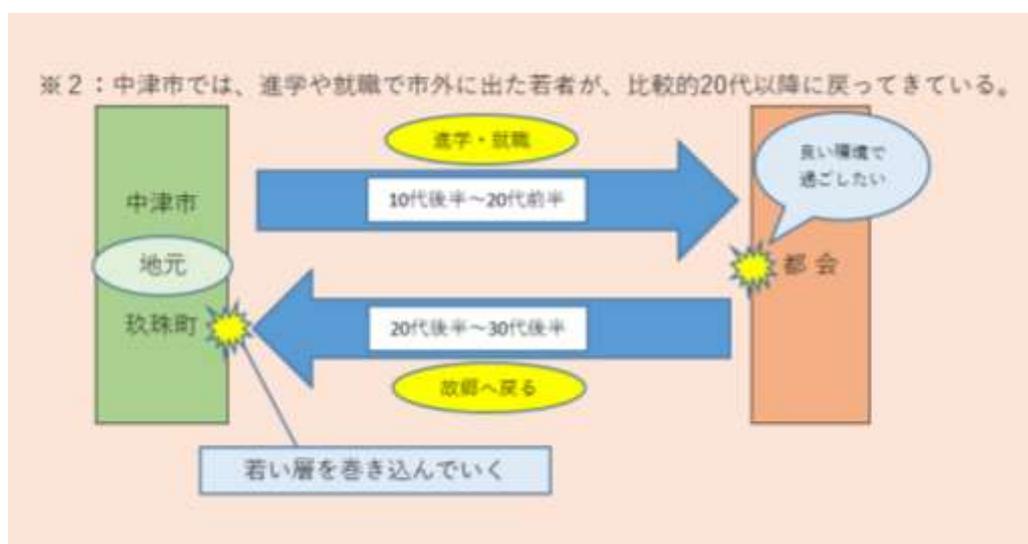
そうしたことから、地域の内外に向けた訴求強化を引き続き行っていくこととし、具体的には下記のターゲットに対して特に注力して訴求していく。

◆ファンを増やしていく視点でのターゲット

- 中津市・玖珠町の児童・生徒
- 同、中高年層
- 大分県内の他地域の小中学生（教育旅行等）
- 九州内都市圏、特に福岡県内に住む多拠点居住や移住に関心のある層（特に若年層）

◆事業に巻き込んでいく視点でのターゲット

- Uターンなどで地元に戻ってくる比較的若い層（※2：説明図）



(2) 戦略の方向性

前述のビジョンを実現するための3つの柱に対応し、各ターゲット層に向けて展開する具体的な戦略として、以下の3点を設定した。

①地域の民間人材を巻き込んだ体制の構築

今後の自走にむけて、また持続性を担保するために、観光協会や民間プレイヤーとの連携を強化し、地域ブランディングや収益化などの推進体制を整備・構築していく。地域民間人材の更なる発掘とリー

ダー人材の育成、地域ブランディングと情報発信を含めた戦略重点ごとのワーキンググループ（以下「WG」という）の設置、事業推進サイクルの整備、持続的な事業運営のための多面的な財源構成の検討と採用といった点について取り組み、これによって行政中心の体制から官民一体となった体制への転換をはかっていく。

②関係人口拡大にフォーカスした事業の強化

地域への来訪者数と地域のファンの拡大を図るために、次の3つの視点から戦略を進めていく。

- ・周遊の為の拠点整備；

耶馬溪エリアの中心に位置する場所に日本遺産センター（耶馬溪風物館）を設置し情報発信やガイダンスを行っているが、地域外からの来訪者が最初に訪れる両市町の入口（中津駅周辺、豊後森駅周辺）においてはまだその機能が十分でなく、観光客への訴求を考慮し、今後、地域内動線上での訴求を強化するためにも、これら入口の機能強化・整備をはかっていく。これらの取り組みを推進し、各市町の入口に設置するセンター機能と耶馬溪エリアにある日本遺産センターを結び、連携したガイダンスやガイドの紹介などを行っていき、周遊が出来る仕組みを作る。

- ・体験プログラムの造成・拡充；

これによって、地域内の滞在時間と観光消費額の増加をはかっていく。その際、歴史文化への関心がそれほど高くない層へ認知を拡大するためにも、まだ魅力を伝えきれていない部分、例えば構成文化財の一つとなっている食（鱧やすっぽん）などの活用、健康や環境などといった現代において関心の高い価値要素とストーリーを連携させた体験プログラムを意識した、「日本遺産＋健康＋食」というような、新たなプログラムの拡充をはかっていく。

- ・長期滞在プログラムの強化

上記、3点の取り組み強化により地域に対する関心を高めながら、関係人口へとつないでいくための取り組みとして、耶馬溪地域での長期滞在を促進するプログラムを展開していく。

③徹底した普及啓発・情報発信

地元の人が日本遺産のことをまずは「知る」こと、そのうえで、地元に対する誇りや愛着をもってもらい、活動に参加する人が増えるといった“土台作り”が重要である。学校における授業での日本遺産の取り上げの徹底などの子ども向けの訴求、イベントなどを通じて大人も日本遺産をはじめとした地域の歴史・文化に触れる機会の創出・拡充に取り組む。また、これらの事業の推進を地域の官民が連携して行うことにより、関係する人材の育成も進めていく。更には、地域外へ向けた情報発信を通じて、中津や玖珠の歴史・文化に魅力を感じて観光に来る人が増え、その中の一部が“耶馬溪ファン”、地域へのリピーターとなり、更に多拠点居住や移住を含めた、関係人口の拡大へとつなげていく。

以上の重点戦略を3本柱とし、官民一体となり、地域の活性化、地域の歴史・文化を後世に伝えていくためのきっかけの一つとして、日本遺産とその事業を展開していく。

（４）実施体制

（１）推進体制の構築

協議会は、2市町の行政（中津市・玖珠町）を中心に組織されている。今後の実施体制について、大きく検討を加えたのは次の2点である。

① アドバイザーの設置

日本遺産事業全体について、ビジョンや戦略の実現に向けた助言や監修を行う。このポジションについては、協議会の取り組みを把握・理解しており、認定当初より適宜アドバイスをいただいていた、日本遺産プロデューサーを務めた経験のある人材に、協議会から委託することとする。

② 3つのワーキンググループ（WG）を組織

①観光開発事業・民間連携

地域の民間人材を巻き込んだ、日本遺産を活用した観光事業を企画・推進する体制作りを、観光協会と連携して進めていく。WGの機能としては、関係する事業者との調整や地域民間プレイヤーのさらなる発掘を行うこと、発掘した地域プレイヤーとともに体験プログラムや観光商品の企画・開発を共同で行うこと、地域ブランディングや収益化のための推進体制の整備を行い、けん引役や実行役を一部協会が担うことを計画している。これにより、これまでの行政中心の事業推進体制から官民が連携した事業展開に転換していくこと、そして、移住担当課との連携を行い、「暮らすように旅する」プログラムなど、長く滞在をしていただく新たな取り組みを推進していくことも目指す。

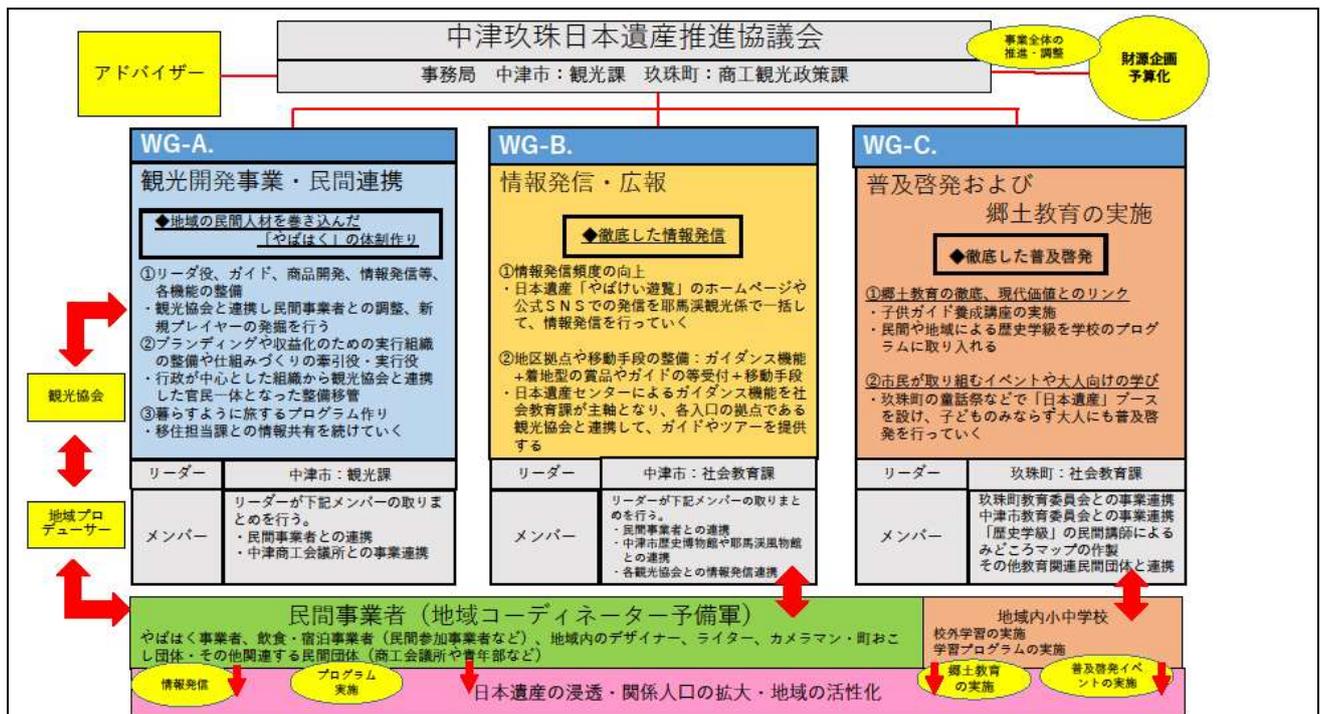
また、前述の観光協会との連携にあわせて、人材育成・確保の観点から日本遺産事業の一部を観光協会などに依頼するだけでなく、民間との連携により更なる事業の推進を図っていく。具体的には、民間プレイヤーとの連携を協会が担うだけでなく、協会と民間プレイヤーの間に立つ、地域プロデューサーなどのポジションを確立させるよう、人材の育成と確保について観光協会と連携して進めていく。

②情報発信および広報

「継続的な情報発信」というテーマのもと、日本遺産「やばけい遊覧」のホームページや公式SNSでの発信を中津市観光課が担当として事業を進めていき、ユーザーとのやり取りが双方に対応できるようにする。また、行政からのSNSなどの発信だけでなく、民間との連携で情報の発信を行っていく。例えば、「やばはく」の各プレイヤーからの日本遺産の情報発信などを依頼し、官民連携での発信に取り組む。更には、日本遺産センター（耶馬溪風物館）によるガイド機能を中津市社会教育課が担当として、各入口の拠点である観光協会と連携して、情報発信ならびにガイドやツアーを実施していく。

③普及啓発および郷土教育の実施

「徹底した普及啓発」というテーマのもと、これまでも玖珠町社会教育課が中心に子どもに向けた普及啓発を行ってきたことから、引き続き玖珠町社会教育課が取りまとめ役として事業を進めてく。事業内容については、今年度新たにスタートした、小学校4年生から6年生などの高学年ならびに中学校1年生を対象とした、学校授業での学習の機会の創出を本格的にスタートさせ、民間や地域による歴史学級を現地研修などのプログラムに取り入れるなどの郷土教育の徹底と現代価値とのリンクを行っていく。また、玖珠町の童話祭などで「日本遺産」のブースを設置、各種啓発イベントを開催するなど、子どものみならず大人に向けた普及啓発を行っていく。あわせて、両市町の教育委員会や歴史学級の民間講師、その他教育関連団体、引き続き、地域内の小学校などと連携し事業を進めていく。



●地域コーディネーター

今後の自走、持続性に配慮し、中長期的に取りまとめ・推進を担う地域民間人材の発掘、育成が必要となっている。そうした人材を地域コーディネーターとして位置づけ、協議会と観光協会などが連携して民間の各分野でのキーマンとなるよう育成を進めていく。

●地域プロデューサー

前述の地域コーディネーターと協議会・観光協会の間を取り持つ調整役に、地域プロデューサーを配置する。地域コーディネーターの育成の補佐ならびに取りまとめを行い、コーディネーターに寄り添ったサポートを実施していく。

上記のように3つのWGを組織し、地域の学校や民間事業者と連携し、日本遺産の普及啓発、関係人口の拡大、そのための情報発信に分担して取り組んでいく。その全体を調整・連携させる役割を中津市観光課と玖珠町企画観光振興課からなる協議会の事務局が担う。

[人材育成・確保の方針]

今後3年間の計画を進めていく中で、協議会に関連する人材の育成にも努めていくこととする。具体的な手法としては、アドバイザーや講師を招聘し、上記の体制図に記載されているWGごとに課題の共有や事業の進捗状況の確認、勉強会の機会を設け、ブラッシュアップしていく場を創出すること、また、県内の日本遺産に認定された団体と連携を図り、互いの地域における課題や現状を共有する場を創出し、協議会内での知識向上や各団体との連携事業を実施できるように協議していく。

(5) 日本遺産の取組を行う組織の自立・自走

(1) 中津玖珠日本遺産推進協議会の次のステップへ向けて

協議会では、文化庁からの補助金のほか、各市からの負担金を基本的な財源として事業を行ってきた。加えて、日本遺産のブランディングやPRのために制作したノベルティをイベント等で販売することにより、その収益を財源として確保してきた。

上記の3つのワーキンググループを中心に、先に述べたビジョンの達成に向けた取り組みを実施していくが、今後は関連する補助金の活用のみならず、「やばはく」への参加手数料を徴収するなどして

収益強化をはかっていく。また、日本遺産事業のファンになっていただける地域の企業などから協賛金を得るなどして、事業費の確保を行っていきたい。

すでに協議会では、内閣府の地方創生推進交付金を活用し、2022 度から3年間の補助をいただくことが決まっており、補助金を活用しながら事業を進めているが、今後は自走に向けて、財源構成の多角化をはかり、例えば、クラウドファンディングの活用なども行っていくよう検討・計画していく。

(6) 構成文化財の保存と活用の好循環の創出に向けた取組

(1) 構成文化財の保存と活用について

日本遺産の事業を通して、ストーリーを構成している構成文化財を保存していくこと、また、いかに活用を続けていくかについて協議を行った。

保存については、大きく2つの方法で進めていくことを検討している。1つ目に構成文化財の保存活動を行う協議会などの組織を増やしていくことである。すでに構成文化財の1つである平田邸について保存活動を進めている平田邸活用推進協議会は、平田邸の保存と平田邸を核としたまちづくりを行っており、会員の募ることによる会費の調達、グッズの販売による収入の確保など、保存に向けた取り組みを2019年より実施している。こうした構成文化財に保存活動を行っていく組織を増やす取り組みを行っていく。

2つ目に、「やばはく」で保存活動と連動したプログラムを増やしていくことである。すでに、「やばはく」の中に、構成文化財の登山道の岩壁を整備し、景観を守り伝える体験プログラムがある。こうしたプログラムを参考に、今後は、「やばはく」に参加するためには、プログラム内に保存活動を1つ盛り込むことを条件にすることなども検討し、保存活動を進めていく。

続いて活用については、体制の再構築について協議を行った。これまでの行政中心の事業体制から、民間と協働で実施可能な事業については連携をしながら進めていくこと。特に、協議会の事業の一つである「やばはく」については、観光協会と連携し事業者の調整や新規プログラムの開拓など、一部を観光協会へ委託することを検討し、2024年度以降は民間と連携した運営体制の再構築を進めていく。

(2) 好循環の創出に向けた取り組みについて

今後も事業を進めていくために、必要な取り組みの1つとして財源の確保が挙げられる。協議会では前述の各種補助金の活用などを進めているが、補助金以外の協議会への収入を安定的に確保する仕組み作りに注力していく。令和5年度中に財源構成について両市町で協議を行い、前述した課題が解決できるよう、多角的な財源構成と好循環の創出に向けて取り組んでいく。

(7) 地域活性化のために行う事業

(7) - 1 組織整備

(事業番号 1 - A)

事業名	民間と連携した組織整備作り		
概要	中津玖珠日本遺産推進協議会と民間事業者との連携強化に向けて組織整備を図る。推進体制の再構築にあたっては、役割分担、とりまとめ役を明確にした 3つのWGを設置し協働できる事業の検討、その事業の実施を行う。取組の監修や外部評価・助言のため、アドバイザーを依頼し、組織の強化を図る。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	日本遺産事業の推進体制の構築	<p>協議会の中心的役割を担っている、中津市と玖珠町の両市町の教育委員会や観光協会などと連携して事業を進めていく。下記の3つのWGを組織、役割分担を明確にし、実行に移していく。</p> <p>① 観光開発事業・民間連携 地域の民間人材を巻き込んだ観光事業の企画・推進体制作りを中津市観光課と観光協会と連携して進めていく。</p> <p>② 情報発信および広報 「継続した情報発信」というテーマのもと、中津市観光課と社会教育課が取りまとめ役として事業を進めていく。</p> <p>③ 普及啓発および郷土教育の実施 「徹底した普及啓発」というテーマのもと、玖珠町社会教育課が取りまとめ役として事業を進めていく。</p>	事務局 関係団体
②	民間との連携による事業案ならびに実施方法について	<p>前述の推進体制の再構築に伴い、官民が連携し実施することができるものの具体的な実施案と実施方法を検討していく。</p> <p>《想定される連携事業》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・郷土学習の徹底 →子どもたちを対象とする、引き続き学校と連携した、民間講師（地域）を招いての出前講座など。 ・情報発信 →観光協会と日本遺産センターが連携した窓口による情報発信ならびに地域ガイドの紹介。地域のプレイヤーからSNSでの情報発信協業など。 	協議会 関係団体

③	アドバイザーの設置	日本遺産事業全体について、ビジョンや戦略の実現に向けた助言や監修を行う。このポジションについては、協議会の取り組みを把握・理解しており、認定当初より適宜アドバイスをいただいていた、日本遺産プロデューサー経験のある人材に、協議会から委託する。	事務局 関係団体
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2020			
2021			
2022			
2023	体制の再整備（WG設置等）		組織化
2024	官民協働で実施する事業の数		2件（前年から増えた数）
2025	官民協働で実施する事業の数		2件（前年から増えた数）
事業費		2023年度：400千円 2024年度：700千円 2025年度：1,000千円	
継続に向けた事業設計		単年度で連携を構築していくのではなく、3年後の民間連携がある程度完成している状態を目指し、逆算して体制の構築を図る。	

(7) - 2 戦略立案

(事業番号2-A)

事業名	課題の共有と戦略会議の開催について		
概要	日本遺産事業を推進していくにあたって、これまでも定期的に事務局を中心とした関係機関が集まり、課題の共有や「やばはく」事業の共有会議を開催していたが、新たな3年間の計画の進捗状況なども含め、情報共有と戦略を進めていく場の創出をはかっていく。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	定期的な事務局会議による協議会内の連携推進	定期的を開催する事務局会議は、中津玖珠の両市町の観光部局ならびに教育委員会部局を中心に集まり PDCA サイクルで事業を成長させていく。各WGが進めている事業についての進捗状況や見直しなどについて情報を共有、事務局で日本遺産全体の事業推進に向けて調整と連携を行う。	協議会
②	WGの会議の開催	上記の事務局会議とは別に、WGごとの情報共有および戦略会議の場を設ける。WGでは、観光協会などと連携して、春と秋の時期に開催している「やばはく」の開催期間終了後などに、地域プレイヤーの方々との会議の場を設け、事業の反省と次回への戦略について協議し、事務局へ提言する。また、グループごとに集まる機会を設けることにより、各グループでの戦略の進捗状況の確認や今後に向けた取り組みの検討・企画を行う。令和5年度下半期からのスタートを目指す。	協議会 協会 関係団体
③	アドバイザーミーティングの実施	前述のアドバイザーが参加し、3年間の活性化計画が順調に推進しているかどうか、実施した事業の評価、見直し、振り返りなどを議論。効果的な計画の推進をはかっていく。	協議会
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2020			
2021			
2022			
2023	① 事務局会議の開催数 ②WG会議 ③アドバイザーミーティング		①6回、②2回、③4回
2024	① 事務局会議の開催数 ②WG会議 ③アドバイザーミーティング		①6回、②4回、③4回
2025	① 事務局会議の開催数 ②WG会議 ③アドバイザーミーティング		①6回、②4回、③4回

	ーティング		
事業費	2023年度： —	2024年度： —	2025年度： —
継続に向けた事業設計	<p>① 定期的な事務局会議による協議会内の連携推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆第1回 4月 活性化計画の年間スケジュールの確認、プレイヤー会議 ◆第2回 6月 やばはく秋の打ち合わせ、その他事業の打ち合わせ ◆第3回 8月 やばはく秋の打ち合わせ、その他事業の打ち合わせ ◆第4回 11月 その他事業の打ち合わせ、プレイヤー会議 ◆第5回 1月 やばはく春の打ち合わせ、その他事業の打ち合わせ ◆第6回 2月 やばはく春の打ち合わせ、その他事業の打ち合わせ <p>② WGの会議の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆第1回 4月 WGの事業確認、役割分担の確認、進捗状況の確認 ◆第2回 8月 振り返り、進捗状況の確認 ◆第3回 11月 振り返り、進捗状況の確認 ◆第4回 3月 1年間の振り返り、次年度への計画・事業の確認 <p>③ アドバイザーによる事業の振り返り機会の創出</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆第1回 6月 振り返り、進捗状況の確認、改善案の検討 ◆第2回 9月 振り返り、進捗状況の確認、改善案の検討 ◆第3回 12月 振り返り、進捗状況の確認、改善案の検討 ◆第4回 3月 1年間の振り返り、次年度への計画・事業の確認 		

(事業番号2-B)

事業名	日本遺産事業と各種計画の関連について		
概要	今回の策定した計画については、進捗状況を確認しつつも、各種計画との整合性についても確認・共有する必要がある。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	新たな各種戦略における計画との整合性	中津市や玖珠町の、本計画との関連ある戦略について、整合されるよう、協議会内や関係部局との共有、確認、協議を行う。	協議会
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2020			
2021			
2022			
2023	日本遺産事業が盛り込まれている計画		2件（既存の計画数）
2024	メイプル耶馬サイクリングロード活性化計画		3件（合計の計画数）
2025	山国川上流地区かわまちづくり計画（仮称）		4件（合計の計画数）
事業費	2023年度： 300千円	2024年度： 300千円	2025年度： 300千円

継続に向けた事業設計	日本遺産事業が既に盛り込まれている計画については、計画の見直しなどそのタイミングを注視しながら、常に最新の計画を共有し、各計画における整合性に配慮して盛り込まれるように取り組んでいく。また、日本遺産事業が新たに計画に盛り込まれそうなその他各種計画についても注視して取り組んでいく。
------------	--

(7) - 3 人材育成			
(事業番号3-A)			
事業名	「やばはく」の自走に向けた地域コーディネーターの確立		
概要	現在、「やばはく」については、協議会（行政）が中心となって取りまとめを行っているが、今後の自走、持続性に配慮し、中長期的に取りまとめ・推進を担う地域民間人材の発掘、育成が必要となっている。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	観光協会との連携	「やばはく」事業を、観光協会と連携して取りまとめを行っていく。それに加えて、プログラムの商品開発やブランディング、新規プレイヤーの開拓など、事業や人脈、商品開発のノウハウなどを活かしながら、3年間をかけて観光協会と地域の民間プレイヤーが主体となる体制を作っていく。	協議会 観光協会
②	地域コーディネーターの育成	観光協会と地域のプレイヤーの間を取り持つ、地域コーディネーターを育成していき、地域と密に連携し協会との間を取り持つ。また、地域コーディネーターの育成を行いつつ、その中からコーディネーターを取りまとめ、事業全体の企画・プロデュースを行う地域プロデューサーを新たに発掘、育成することで、持続可能な民間をとした体制作りを目標としていく。	観光協会 関連団体
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2023	地域コーディネーターの追加人数		1名（合計の人数）
2024	地域コーディネーターの追加人数		2名（合計の人数）
2025	① 地域コーディネーターの追加人数		① 3名（合計の人数）
	② 地域プロデューサーの追加人数		② 1名（合計の人数）
事業費	2023年度：400千円 2024年度：700千円 2025年度：1,000千円		
継続に向けた事業設計	事業を継続していくためには、観光協会と密に連携し事業費の確保に努めていく。合わせて各省庁の補助事業などの情報にも注視しつつ、人材育成の観点などから補助が対象となる補助金なども活用して行く。また、コーディネーターやプロデューサーが辞めることにならないよう、段階的に組織で連携していく体制を作る。		

(7) - 4 整備

(事業番号 4 - A)

事業名	日本遺産センター（耶馬溪風物館）の活用ならびに機能の拡充		
概要	平成 30 年度に設置した日本遺産センター（耶馬溪風物館）については、紹介パネルの設置やストーリー感じることが出来る紹介コーナーの設置などを行ってきたが、今後は地域ガイドの紹介や両市町の入口との連携など、本施設を更に利活用し、よりきめ細かな情報発信や連携が出来るように取り組む。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	日本遺産センターとしての耶馬溪風物館のPR	更なるPRの拠点として令和4年10月に日本遺産センターの入館料を無料化。より多くの方に気軽に日本遺産に触れていただくように機会の創出を図る。また、センターから耶馬溪を案内する有料ガイドや体験プログラムの手配受付ができるようにし、その売上分の一部を手数料として徴収し、協議会の活動費用として充てるなどの仕組みを作っていく。 更には、近隣の道の駅や観光施設などにも、日本遺産センター（耶馬溪風物館）を告知し誘導を図るようにしていく。	中津市教育委員会
②	中津・玖珠観光の入口としての整備	「やばけい遊覧」の構成文化財を紹介、体験できる観光ルートを整備。日本遺産センター（耶馬溪風物館）を中心とした両市町の観光協会（観光案内所）に入口を設け、3拠点で連携を図ることにより、エリア内の周遊が促進されるようにガイダンスの整備を行っていく。 また、上記の3拠点で受けることが出来るサービスを文化施設（博物館など）や道の駅、構成文化財に関連する公共施設などで掲示し、誘客を図る。	両教育委員会
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2020			
2021			
2022			
2023	日本遺産センター（耶馬溪風物館）への入館者数		10,000名
2024	日本遺産センター（耶馬溪風物館）への入館者数		11,000名
2025	日本遺産センター（耶馬溪風物館）への入館者数		12,000名
事業費	2023年度：100千円 2024年度：500千円 2025年度：500千円		

継続に向けた 事業設計	事業については協議会の予算で実施を想定。1年目は、観光パンフレットなどに日本遺産事業の紹介を掲載していく。2年目は、センターと両市町の観光協会（観光案内所）結ぶルートマップの作成し、協議会のストーリーでもある「遊覧」が出来るように取り組みを進めていく。3年目は、直接ガイドによる実際の観光体験に繋げていくため、日本遺産センターと地元ガイドが連携し、ガイドを紹介出来るような取り組みを行っていく。
----------------	---

(7) - 5 観光事業化

(事業番号5-A)

事業名	関係人口拡大にフォーカスした事業の強化		
概要	実績のある「やばはく」をブラッシュアップさせつつ、これと連携して関係人口拡大に繋げていくために、ストーリーと連携し、食などの地域資源・特性を活かした3つの取り組みを新たに行う。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	「やばはく」を通じた長期滞在に向けた取り組み	滞在時間を延ばし、観光消費を増加させるために、日本遺産に関連した宿泊体験プログラムを増やす。既に事業として進めている「やばはく」では、1つの宿泊プログラムがあるが、特に家族連れや若い方の参加が多く大変好評である。こうした事例を土台にして、若年層をターゲットとした宿泊体験プログラム（トレッキングやサイクリング文化体験などを織り交ぜた宿泊を兼ねた内容）を増やしていき、滞在時間の長期化、関係人口の拡大につなげていく。あわせて、通常の宿泊では体験できない構成文化財などに触れる機会（歴史と文化を学ぶプログラム）を設け、特別感を演出していく。	中津市観光課 (観光協会)
②	興味関心を持ちやすい「食」を重点においた取り組み	構成文化財であり、地域の特徴でもある、すっぽん料理や鱧料理、栗饅頭などの「食」体験ができるプログラムを整備していく。例えば鱧にスポットを当て、鱧のグルメガイド「なかつ鱧美食帖」をサブストーリーとして位置付けし、「食」を中心としたプログラムを作成していく。地域の田舎料理と後世に伝えている研究家を料理教室の講師として招き、料理教室の要素を取り入れ、体験もできるようにするなど、地域との交流を生むプログラムとして取り組んでいく。	中津市観光課 (観光協会)
③	地域の産業をより深く巻き込んだ「やばはく」の展開	耶馬溪エリアの豊かな自然を活用し、「癒し」をテーマとしたプログラムを開発する。地域ではエリア内の木から抽出した精油を活かし、アロマ作りを体験できるプログラムなどがあり、林業と連携したプログラムが実施されている。ストーリーと連携させ、地場の産業の後押しをする事業を強化していく。例えば、1日で終わるアロマ作りを、実際に木々を採取するところから体験して、抽出するところもプログラムに取り	中津市観光課 (観光協会)

		入れるなどして、滞在の長期化もはかり、観光消費額の増加をはかっていく。	
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2020			
2021			
2022			
2023	新規宿泊体験プログラムにおける参加者数		15名
2024	新規宿泊体験プログラムにおける参加者数		20名
2025	新規宿泊体験プログラムにおける参加者数		25名
事業費	2023年度：400千円　2024年度：700千円　2025年度：1,000千円		
継続に向けた事業設計	事業の実施については、観光協会と連携したプログラム作りを想定している。すでに観光協会が実施している事業とも合わせて行っていくことで、これまでのツアーの開催などのノウハウを生かしスムーズな新規プログラムの作成を図っていく。		

(7) - 6 普及啓発			
(事業番号6-A)			
事業名	日本遺産に触れるきっかけ作りと大人向けの訴求		
概要	普及啓発の一環として、日本遺産に関連する施設へより気軽に来ていただくような仕掛け作りを行う。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	スタンプラリーの実施	玖珠町内のマイクロツーリズムにおけるスタンプラリーの実施。施設は機関庫ミュージアム豊後森藩資料館、久留島武彦記念館の3か所を想定。通年で実施し、参加者には日本遺産ノベルティをプレゼントする。	玖珠町観光課
②	大人向けの普及啓発の取り組み	玖珠町で開催される「童話祭」などで、日本遺産PRブースなどを設け、家族連れや地域の方に事業を知ってもらうような場の創出を行う。その他、普及啓発が出来るような取り組みにつき、WGを中心に協議、企画検討し、機会の創出を増やしていく。	玖珠町観光課
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2020			
2021			
2022			

2023	スタンプラリーの参加者	100名
2024	スタンプラリーの参加者	150名
2025	スタンプラリーの参加者	200名
事業費	2023年度：100千円 2024年度：— 2025年度：—	
継続に向けた事業設計	初年度はスタンプラリー用紙の製作。3年間の使用分を想定する。ノベルティについては、2022年度に制作したものを流用していく。	

(7) - 6 普及啓発

(事業番号6-B)

事業名	日本遺産事業を通じた子どもたちへの郷土愛の育み		
概要	地元の人が日本遺産のことをまずは「知る」こと、そのうえで、地元に対する誇りや愛着をもってもらい、活動に参加する人が増えるといった“土台作り”が必要であること。そうした“土台”作りを幼少期から機会を創出することで、長期的な普及啓発に繋げていく。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	地域学校協働活動との連携	地域学校協働活動の取り組みと連携し、小学校4年生から6年生および中学校1年生を対象とした授業内での日本遺産事業における学びの会を創出する。2022年度より学校連携について協議が進んでおり、2023年度からは本格的に始動していく。	玖珠町社会教育課
②	子ども講座の開催	これまでも実施してきた、日本遺産を耶馬溪特有の地形の成り立ちなど、日本遺産のストーリーをテーマに、現地研修などを取り入れた公募での講座を1年間に数回に分けて実施し学校以外でも普及啓発の機会を作り続ける。	玖珠町社会教育課
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2020			
2021			
2022			
2023	① 授業の回数 ② 子どもの参加者数		① 5回 ② 100名
2024	① 授業の回数 ② 子どもの参加者数		① 5回 ② 100名
2025	① 授業の回数 ② 子どもの参加者数		① 5回 ② 100名
事業費	2023年度：300千円 2024年度：300千円 2025年度：300千円		
継続に向けた事業設計	公募による子ども向けの講座をこれまでも実施し、事業の普及啓発を行ってきたが、2023年度からは今年度、教育委員会や学校と連携し、授業を通して、日本遺産事業について学ぶ機会の創出に向けて取り組んだ。また、授業の内容によっては、地元の方を講師として招き、地域と連携して実施していける体制作りにもあ		

	<p>わせて取り組んでいく。</p> <p>2023年度以降は、教材やポストカードを作るための印刷製本費、ワークショップ実施費用など各年300千円を計上する。</p>
--	---

(7) - 7 情報編集・発信			
(事業番号7-A)			
事業名		連携したターゲットへの情報発信	
概要		日本遺産に関連する情報を地域内外へ様々な手法で発信し、実際に目で見て触れる機会を創出し、更なる情報発信に繋げていく。	
	取組名	取組内容	実施主体
①	中津市歴史博物館と連携した情報発信	博物館で開催される日本遺産に関連した「耶馬溪」や「福澤諭吉」をテーマとした企画展を開催する。企画展のPRに合わせて、日本遺産のPRも連動させ、情報発信につなげていくことで特に地域内への普及啓発や情報発信に結び付ける。また、通常の企画展でも日本遺産と関連させることが出来るものに関しては常時連携を図り情報発信を行っていく。	中津市社会教育課
②	関係人口増やすための地域外への情報発信	旅行や歴史などのテーマとした上で活躍するインフルエンサーと連携し、新たな地域外への若年層に向けた情報発信を実施する。地域外から若者に来ていただき、体験や交流を通じたファンを増やし、リピーターへと繋げていく。あわせてハッシュタグ「#yabakei_spirits(耶馬溪スピリッツ)」を活用したフォトコンテストなどを開催し、ユーザーを巻き込んだSNSの取り組みを実施していく。	中津市観光課
③	地域内への情報発信およびブランディング	前述のように、地域外へ向けたファンの獲得を行っていくが、地域内へのファン獲得のため、例えば地元の高校生参加型のフォトコンテストなどを開催して、若年層へ向けた情報発信を行うことでのブランディングを進めていく。	中津市観光課
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2020			
2021			
2022			
2023	インスタグラムおよびフェイスブックのフォロワー数の		30%アップ

	上昇率	
2024	Instagramおよびフェイスブックのフォロワー数の 上昇率	50%アップ
2025	Instagramおよびフェイスブックのフォロワー数の 上昇率	80%アップ
事業費	2023年度：400千円 2024年度：400千円 2025年度：400千円	
継続に向けた 事業設計	<p>予算については、中津市の予算で事業を行っていく。月に1回の事務局会議で事務局側と教育委員会で常に情報を共有し、企画展との連動を図っていく。</p> <p>◆Instagram（やばけい遊覧）フォロワー数 859名 ◆フェイスブック（やばけい遊覧）フォロワー数 909名</p> <p>令和5年3月13日時点</p>	

(事業番号7-B)

事業名	主要なイベントと連携した情報発信		
概要	日本遺産と観光施策の中でも主要なイベントなどと連携し、情報発信を行う事により相乗効果をはかっていく。		
	取組名	取組内容	実施主体
④	不滅の福澤プロジェクトとしての「耶馬溪」をPR	2024年の福澤諭吉の一万円札肖像交代に向けて、現在、中津市では福澤諭吉の偉業を後世に伝える「不滅の福澤プロジェクト」を遂行している。日本遺産の構成文化財でもある「競秀峰」は当時福澤諭吉が私財を投じて景観を守ったと言われている。この競秀峰は構成文化財の一つでもあるため、これを切り口に日本遺産の認知へとつなげていくこと。具体的には、各種プロジェクトの事業で日本遺産の認定マークや事業の説明をチラシやパンフレットなどに盛り込んでいき、周知へとつなげていく。また、不滅の福澤プロジェクトの事業の中でも日本遺産の要素も取り入れ、互いに連携した情報発信につなげていく。	中津市社会教育課
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2020			
2021			
2022			
2023	プロジェクトと連動した事業やイベントの回数		3回
2024	プロジェクトと連動した事業やイベントの回数		4回
2025	プロジェクトと連動した事業やイベントの回数		5回
事業費	2023年度： — 2024年度： — 2025年度： —		

継続に向けた 事業設計	予算については、中津市の予算で事業を行っていく。月に1回の事務局会議で事務局側と観光推進課で常に情報を共有し、プロジェクトとの連動を図っていく。
----------------	--